

第5章 オンライン追加資料

- 付録1 大学生・社会人の回答者の基本属性
- 付録2 回答者の基本属性以外で冊子版から割愛された調査結果
- 付録3 職業選択観に基づく追加集計

※第5章の大学生・社会人を対象とした職業情報ニーズ調査に関して、紙面の都合から本書の本体（冊子版）に記載できなかった集計結果をウェブ上でのみ提供する。なお本書の本体は下記 URL から参照できる（2018年3月末現在）。

(<http://www.jil.go.jp/institute/siryō/2018/documents/203.pdf>)

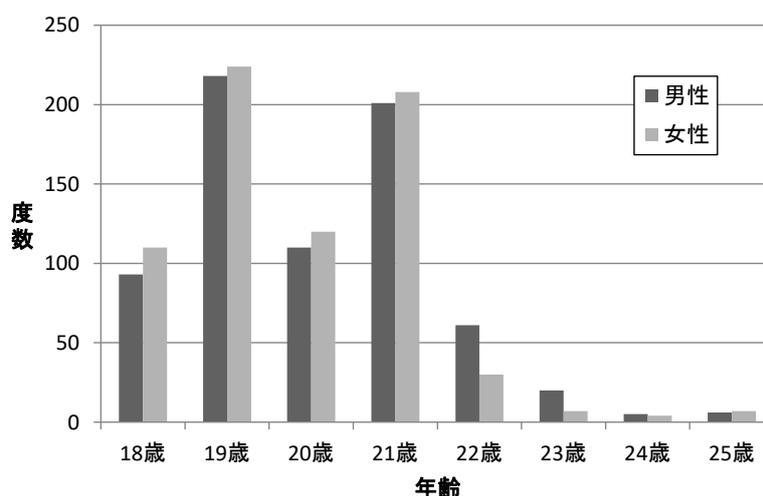
第5章 オンライン追加資料

付録1：大学生・社会人の回答者の基本属性

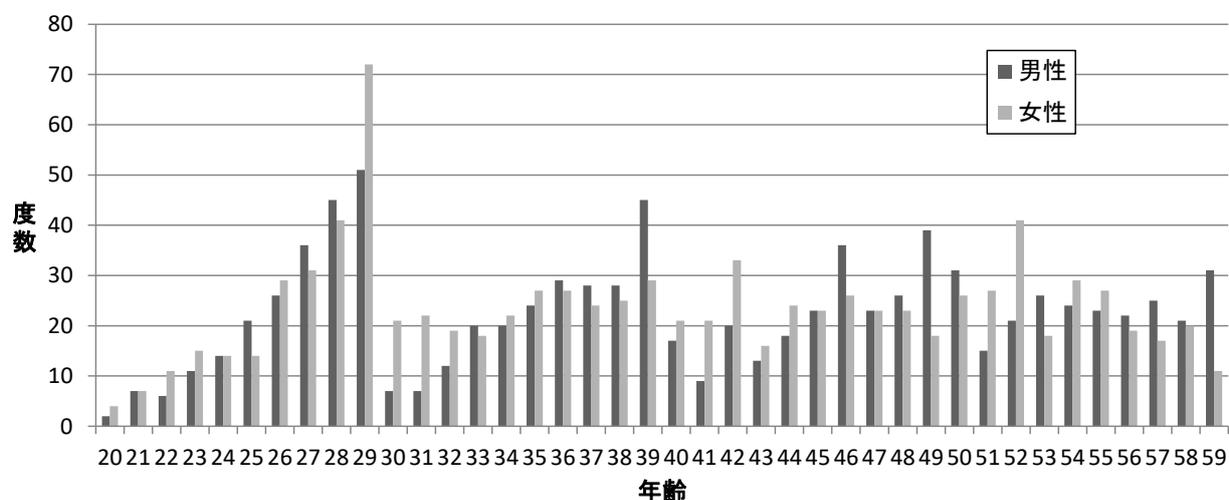
冊子版第5章で報告された、大学生・社会人を対象とした情報ニーズ調査について、紙面の都合から冊子版では割愛された回答者の基本属性の状況を以下図表で列挙する。本付録1の提供の理由は、多様な文脈の人々が含まれる大学生と社会人については結果の解釈にあたって「どのような大学生だったのか」「どのような社会人だったのか」、基本的な属性に関する情報が特に重要と考えられるためである。

なお、第6章の企業人事担当者、高校教師、キャリアコンサルタントについては、職務内容を共有するある程度同質の回答者群と見なせるため同種の付録は準備していない。

図表 付5-1 大学生の回答者の年齢分布 ($n = 1,424$)



図表 付5-2 社会人の回答者の年齢分布 ($n = 1,837$)



図表 付 5-3 大学生の回答者の学部・専攻分布（択一回答）

	文系	理系	他計	合計
1年生	373 50.6%	305 41.4%	59 8.0%	737 100.0%
3年生	373 54.3%	282 41.0%	32 4.7%	687 100.0%
合計	746 52.4%	587 41.2%	91 6.4%	1,424 100.0%

※数値は上段が度数、下段が%を表す。以下、特に記載がなければ同じ。

※最右列は、択一回答の時は「合計」、複数回答の時は「n」を表記。以下同じ。

※選択肢の数が3以下のとき、各層で最も選択率の高いセルを色づけしている。以下同じ。

※「他計」は、該当者が非常に少なかった「芸術系」、「体育系」を「その他」と集約したもの。以下同じ。

図表 付 5-4 社会人の回答者の職業構成（択一回答）

		会社員・ 会社役員	公務員・ 団体職員	自営業	自由業・ フリーランス	派遣・契 約社員	パート・ アルバイト	その他有 職	現在は 働いてい ない	合計
男性	20代	113 51.6%	22 10.0%	11 5.0%	4 1.8%	9 4.1%	26 11.9%	3 1.4%	31 14.2%	219 100.0%
	30代	137 62.3%	22 10.0%	17 7.7%	8 3.6%	6 2.7%	12 5.5%	2 0.9%	16 7.3%	220 100.0%
	40代	128 57.1%	16 7.1%	24 10.7%	16 7.1%	4 1.8%	10 4.5%	3 1.3%	23 10.3%	224 100.0%
	50代	135 56.5%	15 6.3%	34 14.2%	9 3.8%	4 1.7%	11 4.6%	5 2.1%	26 10.9%	239 100.0%
女性	20代	74 31.1%	15 6.3%	0 0.0%	6 2.5%	13 5.5%	53 22.3%	1 0.4%	76 31.9%	238 100.0%
	30代	61 26.1%	8 3.4%	3 1.3%	5 2.1%	17 7.3%	58 24.8%	2 0.9%	80 34.2%	234 100.0%
	40代	66 28.9%	4 1.8%	11 4.8%	7 3.1%	18 7.9%	47 20.6%	5 2.2%	70 30.7%	228 100.0%
	50代	42 17.9%	3 1.3%	10 4.3%	15 6.4%	10 4.3%	55 23.4%	4 1.7%	96 40.9%	235 100.0%
全体		756 41.2%	105 5.7%	110 6.0%	70 3.8%	81 4.4%	272 14.8%	25 1.4%	418 22.8%	1,837 100.0%

※選択肢が4以上のクロス集計表において色づけされている箇所は各区分で比較的选择率が高いセルを表す。また、相対的に見て特に選択率が高いセルは濃い色づけの上、文字色を反転している。以下、同じ。

図表 付5-5 社会人の回答者の学歴（択一回答）

		中卒	高卒	専門学校 卒	短大卒	大卒・ 大学院卒	その他	合計
男性	20代	7 3.2%	55 25.1%	23 10.5%	3 1.4%	130 59.4%	1 0.5%	219 100.0%
	30代	9 4.1%	53 24.1%	33 15.0%	3 1.4%	121 55.0%	1 0.5%	220 100.0%
	40代	10 4.5%	53 23.7%	42 18.8%	4 1.8%	114 50.9%	1 0.4%	224 100.0%
	50代	4 1.7%	67 28.0%	27 11.3%	2 0.8%	138 57.7%	1 0.4%	239 100.0%
女性	20代	10 4.2%	59 24.8%	39 16.4%	21 8.8%	107 45.0%	2 0.8%	238 100.0%
	30代	11 4.7%	48 20.5%	48 20.5%	43 18.4%	84 35.9%	0 0.0%	234 100.0%
	40代	5 2.2%	69 30.3%	29 12.7%	54 23.7%	71 31.1%	0 0.0%	228 100.0%
	50代	3 1.3%	82 34.9%	35 14.9%	46 19.6%	68 28.9%	1 0.4%	235 100.0%
全体		59 3.2%	486 26.5%	276 15.0%	176 9.6%	833 45.3%	7 0.4%	1,837 100.0%

図表 付5-6 大学生の回答者の居住地域（択一回答）

		3大都市圏中心 部、または政令指 定都市	都市圏内、または その他の県庁所 在地	その他の地域	合計
1 年 生	文系	146 39.1%	116 31.1%	111 29.8%	373 100.0%
	理系	104 34.1%	109 35.7%	92 30.2%	305 100.0%
	他計	18 30.5%	26 44.1%	15 25.4%	59 100.0%
3 年 生	文系	154 41.3%	133 35.7%	86 23.1%	373 100.0%
	理系	120 42.6%	88 31.2%	74 26.2%	282 100.0%
	他計	9 28.1%	12 37.5%	11 34.4%	32 100.0%
全体		551 38.7%	484 34.0%	389 27.3%	1,424 100.0%

図表 付 5-7 社会人の回答者の居住地（択一回答）

		3大都市圏中心 部、または政令指 定都市	都市圏内、または その他の県庁所 在地	その他の地域	合計
男性	20代	85 38.8%	57 26.0%	77 35.2%	219 100.0%
	30代	89 40.5%	63 28.6%	68 30.9%	220 100.0%
	40代	85 37.9%	48 21.4%	91 40.6%	224 100.0%
	50代	86 36.0%	68 28.5%	85 35.6%	239 100.0%
女性	20代	81 34.0%	59 24.8%	98 41.2%	238 100.0%
	30代	91 38.9%	60 25.6%	83 35.5%	234 100.0%
	40代	92 40.4%	54 23.7%	82 36.0%	228 100.0%
	50代	83 35.3%	72 30.6%	80 34.0%	235 100.0%
全体		692 37.7%	481 26.2%	664 36.1%	1,837 100.0%

図表 付 5-8 大学生の回答者の最近1ヶ月で最も時間を費やしたこと（択一回答）

		仕事・アルバイト				就 職 活 動 ・ 転 職 活 動	勉 強 ・ 職 業 訓 練	ア 社 会 貢 献 ・ ボ ラ ン テ イ	趣 味 ・ サー クル 活 動	家 事 ・ 育 児 ・ 介 護	そ の 他	合 計
		週40時間 以上	週20~39 時間	週20時間 未満	小計							
1 年 生	文系	27 7.2%	44 11.8%	41 11.0%	112 30.0%	0 0.0%	143 38.3%	3 0.8%	98 26.3%	8 2.1%	9 2.4%	373 100.0%
	理系	14 4.6%	21 6.9%	31 10.2%	66 21.7%	1 0.3%	150 49.2%	1 0.3%	84 27.5%	2 0.7%	1 0.3%	305 100.0%
	他計	1 1.7%	3 5.1%	8 13.6%	12 20.4%	0 0.0%	21 35.6%	0 0.0%	25 42.4%	0 0.0%	1 1.7%	59 100.0%
3 年 生	文系	28 7.5%	51 13.7%	42 11.3%	121 32.5%	11 2.9%	136 36.5%	2 0.5%	93 24.9%	4 1.1%	6 1.6%	373 100.0%
	理系	11 3.9%	22 7.8%	38 13.5%	71 25.2%	5 1.8%	141 50.0%	1 0.4%	61 21.6%	2 0.7%	1 0.4%	282 100.0%
	他計	1 3.1%	2 6.3%	3 9.4%	6 18.8%	2 6.3%	11 34.4%	0 0.0%	10 31.3%	1 3.1%	2 6.3%	32 100.0%
全体		82 5.8%	143 10.0%	163 11.4%	388 27.2%	19 1.3%	602 42.3%	7 0.5%	371 26.1%	17 1.2%	20 1.4%	1,424 100.0%

図表 付 5-9 社会人の回答者の最近1ヶ月で最も時間を費やしたこと（択一回答）

		仕事・アルバイト				就職活動・転職活動	勉強・職業訓練	社会貢献活動・ボランティア	趣味・サークル活動	家事・育児・介護	その他	合計
		週40時間以上	週20～39時間	週20時間未満	小計							
男性	20代	132 60.3%	33 15.1%	7 3.2%	172 78.5%	5 2.3%	6 2.7%	1 0.5%	22 10.0%	8 3.7%	5 2.3%	219 100.0%
	30代	170 77.3%	19 8.6%	6 2.7%	195 88.6%	3 1.4%	5 2.3%	0 0.0%	10 4.5%	4 1.8%	3 1.4%	220 100.0%
	40代	163 72.8%	26 11.6%	5 2.2%	194 86.6%	2 0.9%	2 0.9%	1 0.4%	15 6.7%	5 2.2%	5 2.2%	224 100.0%
	50代	170 71.1%	30 12.6%	6 2.5%	206 86.2%	5 2.1%	0 0.0%	1 0.4%	18 7.5%	5 2.1%	4 1.7%	239 100.0%
女性	20代	77 32.4%	39 16.4%	10 4.2%	126 52.9%	3 1.3%	3 1.3%	1 0.4%	9 3.8%	94 39.5%	2 0.8%	238 100.0%
	30代	66 28.2%	32 13.7%	15 6.4%	113 48.3%	2 0.9%	1 0.4%	0 0.0%	11 4.7%	104 44.4%	3 1.3%	234 100.0%
	40代	73 32.0%	45 19.7%	16 7.0%	134 58.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	11 4.8%	80 35.1%	2 0.9%	228 100.0%
	50代	57 24.3%	37 15.7%	18 7.7%	112 47.7%	1 0.4%	1 0.4%	0 0.0%	25 10.6%	96 40.9%	0 0.0%	235 100.0%
全体	908 49.4%	261 14.2%	83 4.5%	1,252 68.2%	21 1.1%	18 1.0%	5 0.3%	121 6.6%	396 21.6%	24 1.3%	1,837 100.0%	

図表 付 5-10 大学生の回答者の就職経験、および現在の就業状況（各択一回答）

		社会人としての就職経験がある	社会人としての就職経験がない	現在の就業状況						合計	
				正社員として仕事をしていない	パート、アルバイト、派遣	個人事業主、フリーランス	等、組織に属さず仕事をしていない	個人事業主、会社役員等として（個人事業主を除く）	現在、働いていない		その他
1年生	文系	43 11.5%	330 88.5%	2 0.5%	268 71.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	101 27.1%	2 0.5%	373 100.0%
	理系	31 10.2%	274 89.8%	0 0.0%	212 69.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	92 30.2%	1 0.3%	305 100.0%
	他計	9 15.3%	50 84.7%	0 0.0%	39 66.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 33.9%	0 0.0%	59 100.0%
3年生	文系	31 8.3%	342 91.7%	1 0.3%	290 77.7%	2 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	78 20.9%	2 0.5%	373 100.0%
	理系	24 8.5%	258 91.5%	0 0.0%	198 70.2%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	83 29.4%	0 0.0%	282 100.0%
	他計	3 9.4%	29 90.6%	1 3.1%	26 81.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 15.6%	0 0.0%	32 100.0%
全体	141 9.9%	1,283 90.1%	4 0.3%	1,033 72.5%	3 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	379 26.6%	5 0.4%	1,424 100.0%	

図表 付 5-11 社会人の回答者の就職経験、および現在の就業状況（各択一回答）

		これまで就職経験がある	これまで就職経験がない	現在の就業状況						合計
				正社員として仕事をしている	パート、アルバイト、派遣・嘱託等、非正規の仕事をしている	個人事業主に属さず仕事をしている	個人事業主、フリーランス	事業主、会社役員等として仕事をしている（個人事業主を除く）	現在、働いていない	
男性	20代	166 75.8%	53 24.2%	117 53.4%	51 23.3%	8 3.7%	0 0.0%	33 15.1%	10 4.6%	219 100.0%
	30代	206 93.6%	14 6.4%	152 69.1%	20 9.1%	21 9.5%	6 2.7%	15 6.8%	6 2.7%	220 100.0%
	40代	204 91.1%	20 8.9%	131 58.5%	27 12.1%	25 11.2%	12 5.4%	22 9.8%	7 3.1%	224 100.0%
	50代	234 97.9%	5 2.1%	143 59.8%	17 7.1%	36 15.1%	15 6.3%	26 10.9%	2 0.8%	239 100.0%
女性	20代	195 81.9%	43 18.1%	82 34.5%	77 32.4%	3 1.3%	0 0.0%	73 30.7%	3 1.3%	238 100.0%
	30代	198 84.6%	36 15.4%	59 25.2%	84 35.9%	7 3.0%	1 0.4%	77 32.9%	6 2.6%	234 100.0%
	40代	215 94.3%	13 5.7%	66 28.9%	71 31.1%	15 6.6%	3 1.3%	68 29.8%	5 2.2%	228 100.0%
	50代	225 95.7%	10 4.3%	42 17.9%	72 30.6%	23 9.8%	2 0.9%	94 40.0%	2 0.9%	235 100.0%
全体	1643 89.4%	194 10.6%	792 43.1%	419 22.8%	138 7.5%	39 2.1%	408 22.2%	41 2.2%	1,837 100.0%	

図表 付5-12 大学生の回答者の現在の求職活動状況（択一回答）

		正社員としての 仕事を探している	パート、アルバイト、派遣・ 嘱託等、非正規の仕事を探 している	事業主として 起業を考えている、または フリーランス等での独立を 考えている	現在、求職活動は行っていないが、過去 にしたことがある	現在、求職活動は行ってお らず、過去にも一度もした ことがない	その他	合計
1 年生	文系	13 3.5%	175 46.9%	5 1.3%	73 19.6%	106 28.4%	1 0.3%	373 100.0%
	理系	7 2.3%	125 41.0%	0 0.0%	64 21.0%	106 34.8%	3 1.0%	305 100.0%
	他計	0 0.0%	33 55.9%	1 1.7%	7 11.9%	18 30.5%	0 0.0%	59 100.0%
3 年生	文系	123 33.0%	79 21.2%	2 0.5%	49 13.1%	116 31.1%	4 1.1%	373 100.0%
	理系	47 16.7%	68 24.1%	2 0.7%	49 17.4%	113 40.1%	3 1.1%	282 100.0%
	他計	6 18.8%	10 31.3%	0 0.0%	3 9.4%	12 37.5%	1 3.1%	32 100.0%
全体		196 13.8%	490 34.4%	10 0.7%	245 17.2%	471 33.1%	12 0.8%	1424 100.0%

※「過去にしたことがある」人に「何年くらい前か？」を尋ねたところ、平均で1.2年前、標準偏差0.9という状況だった。

図表 付5-13 社会人の回答者の現在の求職活動状況（択一回答）

		正社員としての 仕事を探している	パート、アルバイト、派遣・ 嘱託等、非正規の仕事を探 している	事業主として 起業を考えている、または フリーランス等での独立を 考えている	現在、求職活動は行っていないが、過去 にしたことがある	現在、求職活動は行ってお らず、過去にも一度もした ことがない	その他	合計
男 性	20代	65 29.7%	23 10.5%	4 1.8%	52 23.7%	72 32.9%	3 1.4%	219 100.0%
	30代	78 35.5%	7 3.2%	21 9.5%	66 30.0%	47 21.4%	1 0.5%	220 100.0%
	40代	62 27.7%	5 2.2%	10 4.5%	85 37.9%	60 26.8%	2 0.9%	224 100.0%
	50代	51 21.3%	15 6.3%	10 4.2%	96 40.2%	66 27.6%	1 0.4%	239 100.0%
女 性	20代	54 22.7%	54 22.7%	4 1.7%	77 32.4%	47 19.7%	2 0.8%	238 100.0%
	30代	27 11.5%	45 19.2%	2 0.9%	113 48.3%	41 17.5%	6 2.6%	234 100.0%
	40代	35 15.4%	46 20.2%	4 1.8%	90 39.5%	48 21.1%	5 2.2%	228 100.0%
	50代	13 5.5%	43 18.3%	8 3.4%	119 50.6%	50 21.3%	2 0.9%	235 100.0%
全体		385 21.0%	238 13.0%	63 3.4%	698 38.0%	431 23.5%	22 1.2%	1837 100.0%

※「過去にしたことがある」人に「何年くらい前か？」を尋ねたところ、平均で8.6年前、標準偏差7.8という状況だった。

図表 付5-14 大学生の回答者の希望する職種（択一回答、現在求職活動中の人のみ）

		管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装などの仕事	職種はまだ決めていない	職種にはこだわらない	その他	合計
1年生	文系	6 3.1%	15 7.7%	21 10.8%	14 7.2%	40 20.6%	1 0.5%	1 0.5%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	3 1.5%	64 33.0%	24 12.4%	3 1.5%	194 100.0%
	理系	1 0.7%	34 25.2%	3 2.2%	12 8.9%	20 14.8%	2 1.5%	1 0.7%	3 2.2%	1 0.7%	3 2.2%	5 3.7%	29 21.5%	21 15.6%	0 0.0%	135 100.0%
	他計	0 0.0%	8 23.5%	0 0.0%	3 8.8%	8 23.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	6 17.6%	7 20.6%	1 2.9%
3年生	文系	10 4.8%	10 4.8%	73 35.1%	21 10.1%	23 11.1%	2 1.0%	1 0.5%	2 1.0%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	53 25.5%	9 4.3%	2 1.0%	208 100.0%
	理系	1 0.8%	38 31.7%	9 7.5%	9 7.5%	8 6.7%	0 0.0%	1 0.8%	6 5.0%	0 0.0%	6 5.0%	1 0.8%	23 19.2%	13 10.8%	5 4.2%	120 100.0%
	他計	2 11.8%	5 29.4%	0 0.0%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.8%	1 5.9%	4 23.5%	17 100.0%
全体		20 2.8%	110 15.5%	106 15.0%	60 8.5%	100 14.1%	6 0.8%	4 0.6%	12 1.7%	3 0.4%	10 1.4%	10 1.4%	177 25.0%	75 10.6%	15 2.1%	708 100.0%

図表 付5-15 社会人の回答者の希望する職種（択一回答、現在求職活動中の人のみ）

		管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装などの仕事	職種はまだ決めていない	職種にはこだわらない	その他	合計
男性	20代	4 4.2%	21 22.1%	13 13.7%	9 9.5%	8 8.4%	3 3.2%	0 0.0%	2 2.1%	0 0.0%	1 1.1%	3 3.2%	21 22.1%	9 9.5%	1 1.1%	95 100.0%
	30代	12 11.2%	33 30.8%	15 14.0%	4 3.7%	7 6.5%	1 0.9%	1 0.9%	5 4.7%	1 0.9%	1 0.9%	2 1.9%	14 13.1%	11 10.3%	0 0.0%	107 100.0%
	40代	13 16.5%	12 15.2%	12 15.2%	5 6.3%	9 11.4%	1 1.3%	0 0.0%	4 5.1%	2 2.5%	2 2.5%	3 3.8%	7 8.9%	7 8.9%	2 2.5%	79 100.0%
	50代	14 18.2%	17 22.1%	8 10.4%	7 9.1%	4 5.2%	0 0.0%	1 1.3%	2 2.6%	2 2.6%	2 2.6%	4 5.2%	10 13.0%	5 6.5%	1 1.3%	77 100.0%
女性	20代	0 0.0%	27 23.7%	36 31.6%	12 10.5%	9 7.9%	1 0.9%	2 1.8%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 17.5%	6 5.3%	0 0.0%	114 100.0%
	30代	2 2.5%	20 25.0%	21 26.3%	5 6.3%	8 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 13.8%	8 10.0%	3 3.8%	80 100.0%
	40代	3 3.3%	8 8.9%	33 36.7%	4 4.4%	10 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 21.1%	10 11.1%	0 0.0%	90 100.0%
	50代	1 1.5%	7 10.6%	24 36.4%	5 7.6%	10 15.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.0%	10 15.2%	4 6.1%	2 3.0%	66 100.0%
全体		49 6.9%	145 20.5%	162 22.9%	51 7.2%	65 9.2%	6 0.8%	4 0.6%	20 2.8%	5 0.7%	6 0.8%	14 2.0%	112 15.8%	60 8.5%	9 1.3%	708 100.0%

図表 付 5-16 社会人の回答者の初職の職種（択一回答、就職経験のある人のみ）

		管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装などの仕事	その他	合計
男性	20代	3 1.8%	43 25.9%	29 17.5%	27 16.3%	30 18.1%	4 2.4%	0 0.0%	9 5.4%	2 1.2%	7 4.2%	5 3.0%	7 4.2%	166 100.0%
	30代	13 6.3%	56 27.2%	25 12.1%	31 15.0%	27 13.1%	6 2.9%	0 0.0%	16 7.8%	4 1.9%	11 5.3%	11 5.3%	6 2.9%	206 100.0%
	40代	18 8.8%	47 23.0%	25 12.3%	37 18.1%	23 11.3%	1 0.5%	1 0.5%	21 10.3%	1 0.5%	9 4.4%	11 5.4%	10 4.9%	204 100.0%
	50代	19 8.1%	64 27.4%	20 8.5%	41 17.5%	25 10.7%	4 1.7%	0 0.0%	26 11.1%	2 0.9%	11 4.7%	14 6.0%	8 3.4%	234 100.0%
女性	20代	0 0.0%	54 27.7%	54 27.7%	30 15.4%	34 17.4%	1 0.5%	1 0.5%	9 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.5%	9 4.6%	195 100.0%
	30代	1 0.5%	44 22.2%	75 37.9%	23 11.6%	28 14.1%	0 0.0%	0 0.0%	7 3.5%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.5%	15 7.6%	198 100.0%
	40代	2 0.9%	36 16.7%	91 42.3%	30 14.0%	25 11.6%	0 0.0%	0 0.0%	16 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.3%	10 4.7%	215 100.0%
	50代	2 0.9%	37 16.4%	113 50.2%	17 7.6%	31 13.8%	0 0.0%	1 0.4%	10 4.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	12 5.3%	225 100.0%
全体		58 3.5%	381 23.2%	432 26.3%	236 14.4%	223 13.6%	16 1.0%	3 0.2%	114 6.9%	9 0.5%	38 2.3%	56 3.4%	77 4.7%	1,643 100.0%

図表 付 5-17 社会人の回答者の転職経験、および経験者の転職回数（択一回答&数値記入）

		転職の 経験あり	転職の 経験なし	合計	転職経験者の 転職回数	
					平均	標準偏差
男性	20代	74 33.8%	145 66.2%	219 100.0%	2.0	1.8
	30代	130 59.1%	90 40.9%	220 100.0%	3.0	2.5
	40代	141 62.9%	83 37.1%	224 100.0%	2.9	2.2
	50代	164 68.6%	75 31.4%	239 100.0%	3.7	5.1
女性	20代	110 46.2%	128 53.8%	238 100.0%	2.0	1.2
	30代	133 56.8%	101 43.2%	234 100.0%	2.9	2.3
	40代	172 75.4%	56 24.6%	228 100.0%	3.6	2.6
	50代	178 75.7%	57 24.3%	235 100.0%	3.4	2.7
全体		1102 60.0%	735 40.0%	1,837 100.0%	3.1	3.0

※「転職の経験なし」は、そもそも就職経験がないために本設問の回答対象外だった 194 名を合算した値である。
 ※正確な選択肢の文言は「転職の経験あり（初職以外に職歴がある）」「転職の経験なし（初職以外に職歴がない）」である。

図表 付 5-18 社会人の回答者の現在、または辞める前の直近の仕事の職種（択一回答、転職経験がある人のみ）

		管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務的な仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装などの仕事	その他	合計
男性	20代	3 4.1%	11 14.9%	4 5.4%	22 29.7%	12 16.2%	2 2.7%	0 0.0%	10 13.5%	2 2.7%	4 5.4%	4 5.4%	0 0.0%	74 100.0%
	30代	14 10.8%	34 26.2%	12 9.2%	18 13.8%	22 16.9%	3 2.3%	0 0.0%	14 10.8%	2 1.5%	2 1.5%	6 4.6%	3 2.3%	130 100.0%
	40代	18 12.8%	33 23.4%	14 9.9%	16 11.3%	19 13.5%	2 1.4%	0 0.0%	13 9.2%	6 4.3%	6 4.3%	9 6.4%	5 3.5%	141 100.0%
	50代	30 18.3%	40 24.4%	10 6.1%	26 15.9%	14 8.5%	4 2.4%	1 0.6%	13 7.9%	5 3.0%	5 3.0%	7 4.3%	9 5.5%	164 100.0%
女性	20代	0 0.0%	23 20.9%	43 39.1%	15 13.6%	14 12.7%	0 0.0%	2 1.8%	8 7.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	4 3.6%	110 100.0%
	30代	1 0.8%	25 18.8%	57 42.9%	12 9.0%	25 18.8%	0 0.0%	1 0.8%	5 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	6 4.5%	133 100.0%
	40代	2 1.2%	23 13.4%	72 41.9%	23 13.4%	31 18.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 5.8%	1 0.6%	0 0.0%	2 1.2%	8 4.7%	172 100.0%
	50代	5 2.8%	23 12.9%	75 42.1%	21 11.8%	30 16.9%	1 0.6%	0 0.0%	5 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	5 2.8%	13 7.3%	178 100.0%
全体		73 6.6%	212 19.2%	287 26.0%	153 13.9%	167 15.2%	12 1.1%	4 0.4%	78 7.1%	16 1.5%	17 1.5%	35 3.2%	48 4.4%	1,102 100.0%

付録 2 : 回答者の基本属性以外で冊子版から割愛された調査結果

本付録 2 では、冊子版第 5 章本文で言及されているものの、紙面の都合からオンラインのみでの提供とされた以下の調査結果を報告する。やや雑多な内容となるが、冊子版本文での言及箇所も併記するため、適宜ご参照頂きたい。

<本付録 2 の内容>

1. 一般的な情報以外で参考となる情報
2. 勤め先探しで利用するサービス、機関、媒体
3. 職業選択において重要と思われる項目 Z 得点化集計
4. 職業選択観

<冊子版における言及箇所>

- (第 5 章第 3 節第 3 項本文)
 (第 5 章第 3 節第 4 項脚注)
 (第 5 章第 4 節第 1 項脚注)
 (第 5 章第 3 節第 3 項脚注、
 & 第 5 章第 4 節第 2 項脚注)

1. 一般的な情報以外で参考となる情報

まず、第 5 章第 3 節第 3 項にて言及されている、仕事に関して「一般的な情報以外で参考となる情報」を尋ねた結果を報告する。「参考となる情報」という設問の設定上、これは単なる利用状況の事実確認というよりも、回答者の評価という性質を併せ持った結果となる。

まず大学生の結果を図表 付 5-19 に示す。全ての層で最も選択率が高かったのは、「家族、友人、知り合い、先輩、同僚等、周囲の人からの情報」であり、ほぼ半数が選択しているという状況だった。大学生の先輩訪問等は我が国でも一般的に行われているが、直接個人的に出会った人から聞く話は、大学生が仕事についてリアリティをもって理解を深める上で大きな存在感を持った情報源であることが示唆されている。

次に選択率が高かったのは、「テレビ、新聞、雑誌、ネット等で紹介される個別の仕事の情報」の 33.8%であった。また、「ある仕事で働く人々のドキュメンタリー」、「ある仕事で働いている人や活躍した人へのインタビュー」についてもそれぞれ 26.3%、27.5%が選択している。つまり、確かに直接面識のある人からの情報はリアリティという点で最も参考とはなるが、自分が関心を持った仕事に就いている人が身近にいないことも多く、こうした場合はメディア経由での情報もまた参考となる情報源であることが示唆されている。

その一方で、「インターネット上での SNS、掲示板等、個人の書込み・口コミ」の選択率も 25.4%と比較的高かった。近年のソーシャルメディアの普及は社会的関心の高いトピックであるが、大学生の 4 人に 1 人程度は直接の面識がない、場合によっては匿名性が高い真偽不明の主観的情報についても閲覧し、参考としている様子が窺える。

なお、「自分のこれまでの実体験、経験」の選択率も 26.3%と高いが、これはおそらくア

アルバイトやインターン等の経験を表しているものと解釈できる。

図表 付 5-19 大学生の回答者の一般的な情報以外で参考となる情報（複数回答）

		テレビ、新聞、雑誌、ネット等で紹介される個別の仕事の情報（〇〇の仕事等）	ある仕事で働く人々のドキュメンタリー（番組、記事、書籍、Webサイト等）	ある仕事で働いている人や活躍した人へのインタビュー（番組、記事、書籍、Webサイト等）	ある仕事で働く人々が登場する小説、ドラマ、映画等	Twitter、Facebook等）	自分のこれまでの実体験、経験	家族、友人、知り合い、先輩、同僚等、周囲の人からの情報	相談、カウンセリング、コンサルティングの中で聞いた仕事の実情	インターネット上でのSNS、掲示板等、個人の書込み・ロコミ	【排他】	その他	n
											情報はない		
1年生	文系	131 35.1%	95 25.5%	105 28.2%	43 11.5%	72 19.3%	103 27.6%	174 46.6%	30 8.0%	96 25.7%	57 15.3%	2 0.5%	373
	理系	113 37.0%	83 27.2%	79 25.9%	36 11.8%	60 19.7%	71 23.3%	143 46.9%	23 7.5%	67 22.0%	47 15.4%	1 0.3%	305
	他計	23 39.0%	19 32.2%	13 22.0%	13 22.0%	12 20.3%	15 25.4%	34 57.6%	6 10.2%	19 32.2%	5 8.5%	0 0.0%	59
3年生	文系	120 32.2%	94 25.2%	102 27.3%	37 9.9%	78 20.9%	102 27.3%	186 49.9%	46 12.3%	109 29.2%	45 12.1%	3 0.8%	373
	理系	81 28.7%	76 27.0%	88 31.2%	31 11.0%	66 23.4%	71 25.2%	138 48.9%	26 9.2%	60 21.3%	48 17.0%	0 0.0%	282
	他計	13 40.6%	8 25.0%	5 15.6%	3 9.4%	5 15.6%	12 37.5%	17 53.1%	4 12.5%	10 31.3%	5 15.6%	1 3.1%	32
全体		481 33.8%	375 26.3%	392 27.5%	163 11.4%	293 20.6%	374 26.3%	692 48.6%	135 9.5%	361 25.4%	207 14.5%	7 0.5%	1,424

※一部の項目の例示箇所のフォントサイズが小さいのは紙面の都合のため。実際の調査票ではすべて同じフォントサイズであった。図表 付 5-20 も同じ。

続いて社会人の結果を図表 付 5-20 に示す。全体としては大学生と同様、「家族、友人、知り合い、先輩、同僚等、周囲の人からの情報」の選択率が最も高いが、その比率は 39.2%と、大学生よりも 9%ポイント程度低い。また、「テレビ、新聞、雑誌、ネット等で紹介される個別の仕事の情報」、「ある仕事で働く人々のドキュメンタリー」、「ある仕事で働いている人や活躍した人へのインタビュー」の選択率も大学生と比べると 10%ポイント以上低くなっている。逆に「自分のこれまでの実体験、経験」は 35.1%と、大学生よりも 9%ポイント程度選択率が高い。社会人の場合は大学生よりも職歴を持っている人が多くなることもあり、より過去の直接経験を情報源として活用している様子が読み取れる。

なお、「インターネット上での SNS、掲示板等、個人の書込み・ロコミ」の選択率については社会人 20 代では大学生と同水準で、年齢階層が高くなるほど選択率の減少傾向が見ら

れる。ソーシャルメディアは若年層ほど浸透しているとすれば、この結果は特に違和感のないものと言える。

図表 付 5-20 社会人の回答者の一般的な情報以外で参考となる情報（複数回答）

		テレビ、新聞、雑誌、ネット等で紹介される個別の仕事の情報（「〇〇の仕事」等）	ある仕事で働く人々のドキュメンタリー（番組、記事、書籍、Webサイト等）	ある仕事で働いている人や活躍した人へのインタビュー（番組、記事、書籍、Webサイト等）	ある仕事で働く人々が登場する小説、ドラマ、映画等	Twitter、Facebook等）	ある仕事の経験者がインターネット上で自分で発信している情報（ブログ、	自分のこれまでの実体験、経験	家族、友人、知り合い、先輩、同僚等、周囲の人からの情報	相談、カウンセリング、コンサルティングの中で聞いた仕事の実情	インターネット上でのSNS、掲示板等、個人の書込み・口コミ	【排他】	その他	n
												一般的な情報以外で、参考になった		
男性	20代	56 25.6%	38 17.4%	40 18.3%	16 7.3%	42 19.2%	62 28.3%	89 40.6%	22 10.0%	61 27.9%	59 26.9%	0 0.0%	219	
	30代	49 22.3%	46 20.9%	47 21.4%	14 6.4%	48 21.8%	72 32.7%	71 32.3%	21 9.5%	48 21.8%	40 18.2%	3 1.4%	220	
	40代	37 16.5%	33 14.7%	27 12.1%	13 5.8%	33 14.7%	88 39.3%	64 28.6%	9 4.0%	45 20.1%	66 29.5%	1 0.4%	224	
	50代	48 20.1%	15 6.3%	20 8.4%	8 3.3%	24 10.0%	98 41.0%	62 25.9%	18 7.5%	37 15.5%	68 28.5%	1 0.4%	239	
女性	20代	74 31.1%	38 16.0%	42 17.6%	30 12.6%	41 17.2%	76 31.9%	135 56.7%	30 12.6%	62 26.1%	38 16.0%	0 0.0%	238	
	30代	60 25.6%	27 11.5%	32 13.7%	13 5.6%	30 12.8%	87 37.2%	103 44.0%	13 5.6%	65 27.8%	50 21.4%	0 0.0%	234	
	40代	47 20.6%	22 9.6%	23 10.1%	6 2.6%	20 8.8%	81 35.5%	106 46.5%	16 7.0%	46 20.2%	57 25.0%	2 0.9%	228	
	50代	43 18.3%	25 10.6%	20 8.5%	5 2.1%	19 8.1%	80 34.0%	91 38.7%	12 5.1%	31 13.2%	72 30.6%	3 1.3%	235	
全体	414 22.5%	244 13.3%	251 13.7%	105 5.7%	257 14.0%	644 35.1%	721 39.2%	141 7.7%	395 21.5%	450 24.5%	10 0.5%	1,837		

2. 勤め先探しで利用するサービス、機関、媒体

次に、第5章第3節第4項脚注にて言及されている、勤め先を探す際に利用するサービス、機関、媒体を尋ねた結果について、まず大学生の結果を図表 付 5-21 に示す。大学生の場合、排他項目である「勤め先を探したことがないので答えられない」の選択率が3割前後を占めており、これは付録1で示した他の集計結果と整合性があると言える。

上記排他項目の選択率に留意しつつ他の選択肢の回答状況を概観すると、最も選択率が高かったのは「民間求人サイト」の35.8%であった。排他項目を除外すると49.4%となり、約半数の大学生が民間求人サイトを勤め先探しで利用すると回答している。次に高かったのは、

「各企業のホームページ」の30.3%で、排他項目除外時の選択率は41.7%であった。非公式の口コミ情報等の存在感が増しつつあるとはいえ、やはり企業が自ら発信している公式情報は勤め先探しにおいて閲覧・利用されている様子が窺える。

この他では、「出身学校」との回答も23.1%が選択していた。これは主に大学のキャリアセンターや構内掲示物等を指すものと考えられ、大学生の場合はこうした情報も勤め先探しにおいて一定の役割を果たしている様子が窺える。

ただし、前掲の図表付5-10、5-12でも確認できる通り今回の調査対象である大学生は3年生も含めてまだ就職活動が本格化していない者がほとんどである。したがって、上述の回答状況については実体験に基づくというより伝聞や想像に基づくもの、あるいは学生アルバイトを想定しての回答が多いと考えられる点に注意が必要である。大学4年生等、本格的に就職活動中の大学生を対象として調査を実施した場合、結果は異なるものと予測される。

図表 付5-21 大学生の回答者の勤め先探しで利用するサービス、機関、媒体（複数回答）

		等新聞 広告、折 り込みチ ラシ	ジ民間 の材人 紹介会 社、エ ー	定ハロ ーワー ク等、 公的機 関	出 身学 校	友縁 人故 、（家 族、 親族 、知 人・ 先 輩な ど）	各 企 業 の ホ ー ム ペ ー ジ	むト 、民 間 求 人 サ イ ト （就 活 サ イ ト 等 を 含 む）	等自 分の 経 歴、 希 望 す る 仕 事 （S N S 等 を 含 む）	【排他】	そ の 他	n
										い勤 め先 を 探 し た こ と が な い		
1 年 生	文系	64 17.2%	46 12.3%	76 20.4%	54 14.5%	50 13.4%	93 24.9%	126 33.8%	33 8.8%	108 29.0%	3 0.8%	373
	理系	48 15.7%	39 12.8%	53 17.4%	58 19.0%	42 13.8%	72 23.6%	87 28.5%	34 11.1%	94 30.8%	0 0.0%	305
	他計	9 15.3%	4 6.8%	7 11.9%	9 15.3%	7 11.9%	9 15.3%	21 35.6%	8 13.6%	18 30.5%	1 1.7%	59
3 年 生	文系	55 14.7%	65 17.4%	57 15.3%	118 31.6%	50 13.4%	148 39.7%	164 44.0%	40 10.7%	79 21.2%	3 0.8%	373
	理系	38 13.5%	37 13.1%	42 14.9%	82 29.1%	33 11.7%	99 35.1%	103 36.5%	38 13.5%	80 28.4%	3 1.1%	282
	他計	3 9.4%	3 9.4%	5 15.6%	8 25.0%	3 9.4%	10 31.3%	9 28.1%	4 12.5%	12 37.5%	1 3.1%	32
全体	217 15.2%	194 13.6%	240 16.9%	329 23.1%	185 13.0%	431 30.3%	510 35.8%	157 11.0%	391 27.5%	11 0.8%	1,424	

続いて社会人の結果を図表付5-22に示す。排他項目である「勤め先を探したことがないので答えられない」の選択率が大学生よりも低いのは当然として、他の選択肢の回答状況を見てみると「ハローワーク等、公的機関」の選択率が全体で46.8%、排他項目除外時60.0%

となり突出して高かった。社会人においては勤め先探しにおいてハローワークの果たす役割が大きい様子が窺える。

また、「民間求人サイト」については20代、30代では4割前後が選択しており、男性20代では最も選択率が高かった。同様に、「各企業のホームページ」も20代、30代で選択率が高く、40代、50代では低くなっている。したがって社会人でも30代までの比較的若い年齢階層では、大学生と似たサービス、機関、媒体を活用して勤め先を探す人が一定数いることが示唆されている。

図表 付5-22 社会人の回答者の勤め先探しで利用するサービス、機関、媒体（複数回答）

		等新聞	民間	ハロー	出身	縁故	各企	民間	自	【排他】	その他	n
		広告、折	の人材	ワーク	学校	(家族、	業のホ	求人サ	分の経	い勤		
男性	20代	36 16.4%	59 26.9%	78 35.6%	27 12.3%	22 10.0%	73 33.3%	81 37.0%	22 10.0%	39 17.8%	1 0.5%	219
	30代	44 20.0%	60 27.3%	99 45.0%	17 7.7%	32 14.5%	62 28.2%	90 40.9%	23 10.5%	28 12.7%	1 0.5%	220
	40代	48 21.4%	52 23.2%	91 40.6%	9 4.0%	47 21.0%	47 21.0%	64 28.6%	14 6.3%	48 21.4%	1 0.4%	224
	50代	50 20.9%	42 17.6%	100 41.8%	7 2.9%	53 22.2%	39 16.3%	54 22.6%	13 5.4%	63 26.4%	2 0.8%	239
女性	20代	64 26.9%	62 26.1%	114 47.9%	19 8.0%	43 18.1%	60 25.2%	97 40.8%	16 6.7%	23 9.7%	2 0.8%	238
	30代	77 32.9%	68 29.1%	132 56.4%	8 3.4%	35 15.0%	51 21.8%	94 40.2%	15 6.4%	23 9.8%	1 0.4%	234
	40代	75 32.9%	67 29.4%	123 53.9%	5 2.2%	33 14.5%	30 13.2%	76 33.3%	12 5.3%	34 14.9%	2 0.9%	228
	50代	91 38.7%	37 15.7%	123 52.3%	14 6.0%	35 14.9%	24 10.2%	70 29.8%	9 3.8%	43 18.3%	3 1.3%	235
全体	485 26.4%	447 24.3%	860 46.8%	106 5.8%	300 16.3%	386 21.0%	626 34.1%	124 6.8%	301 16.4%	13 0.7%	1,837	

3. 職業選択において重要と思われる項目 Z得点化集計

続いて、第5章第4節第1項脚注にて言及されている、「重要と思われる職業情報の項目について、回答者ごとに得点をZ得点に変換した上での検討」について報告する。冊子本文の記述の繰り返しとなるが、単純に重要性に関する5段階評価の平均値を見た場合（冊子

版の図表 5-14、5-15)、やや総花的な印象を受ける結果となった。確かに、「職場の様子を写した写真や動画」、「他の職業との関係性」等は相対的に見て低い平均値ではあるが、それ以外の項目はほぼ横並びという状況である。項目間の相対的な重要性を弁別するためには、重要性の順位付けを求める等の工夫をしたほうがより明確な結果が得られたと考えられる。そこで、次善の方策として回答者ごとに得点を Z 得点に標準化した上で、その平均値を算出することとした。

Z 得点は、回答者ごとに 11 項目の 5 段階評価の平均値と標本標準偏差を用いて「(各項目の得点-本人の 11 項目内平均値) ÷ 本人の 11 項目内標本標準偏差」という計算式で算出した。この変換によって、「どの項目が相対的に見て重視されていたか」を、よりメリハリをつけて検討することができる。たとえば、「5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5」と回答していた人における「5」の意味と、「5,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1」と回答していた人の「5」では、後者のほうが相対的な重視の度合いとしては大きい意味を持つはずである。そこで Z 得点化によって前者を「0.000」、後者を「3.162」と変換すれば、「相対的な重視の度合い」を見るのが可能となる。なお、標準偏差が 0.000、すなわち 11 項目の素点が全て同値の場合は本来 Z 得点が計算できないが、ここでは「重視も軽視もしていない」ものと見なし便宜的に Z 得点「0.000」として計算している。正の値は「重視」を、負の値は「軽視」を表すこととなる。

数値変換後の結果を図表 付 5-23 に示す。基本的には変換前の素点が高かったセルが共通して高い得点となっているが、中には位置づけが大きく変わっているものもある。たとえば 1 年生文系について見てみると「職場の環境」は素点平均値が 3.89 と高かったものの、Z 得点化すると .148 とさほど高くない。つまり、この項目を 5 段階評価で高く評価していた人は他の項目も全体的に漫然と高く評価していた人が多く、相対的に重視されている度合いとしては「賃金や年収」(Z = .263)、「将来的な職業の動向」(Z = .242) に及ばないものと解釈できる。

同様に、1 年生他計の「職業の仕事内容の解説」も素点平均値は 4.08 で同率 2 位の選択率だったが、Z 得点は .176 と第 4 位まで順位を落としている。対照的に、素点では同じく 4.08 だった「賃金や年収」は Z 得点も .350 と高い。したがって、単純に素点だけを見ると両項目の重視の度合いは同じように見えたが、個人個人の中での相対的な重視の度合いを加味すると後者のほうが重視されていると解釈できる。

図表 付 5-23 大学生の回答者の職業選択において重要と思われる項目（Z 得点の平均値）

		使職業の 仕事内容 の解説か 何を	年齢・職 業経験に よる仕 事場の 変化の	所属する 職業の 働きか 方「一 人組に 所属す るか」	職場の環 境「ど んな場 所、ど んな環 境か」	職場の様 子を写し た写真や 動画	個人の向 き・不向 き「ど んな業 界に向 かおう か」	給金の年 収水準・ 将来的に 昇給する か	その職業 での求人 数や求人 倍率	将来的な 職業の動 向「今後 も安定 な職業か 」	就くには 職業・業 種になる か「どの 職業が いいか」	他の職業 との関係 性「どの 職業に 就くか」	n
1 年生	文系	.065 (.909)	-.029 (.934)	.107 (.835)	.148 (.802)	-.398 (.970)	.095 (.745)	.263 (.776)	-.239 (.917)	.242 (.724)	.124 (.724)	-.377 (.968)	373
	理系	.067 (.878)	-.025 (.885)	.159 (.837)	.282 (.772)	-.550 (1.042)	.075 (.838)	.397 (.822)	-.315 (.910)	.316 (.750)	.090 (.832)	-.498 (1.006)	305
	他計	.176 (.963)	-.228 (.978)	.331 (.680)	.134 (.866)	-.353 (1.030)	.143 (.864)	.350 (.705)	-.316 (1.080)	.193 (.904)	.133 (.916)	-.563 (.928)	59
3 年生	文系	-.103 (.919)	-.056 (.829)	.249 (.827)	.366 (.830)	-.449 (1.060)	-.003 (.830)	.258 (.818)	-.261 (.982)	.243 (.799)	.136 (.786)	-.380 (.936)	373
	理系	.063 (.927)	-.004 (.822)	.205 (.837)	.210 (.823)	-.480 (.993)	-.003 (.846)	.287 (.819)	-.234 (.952)	.250 (.761)	.090 (.824)	-.384 (.936)	282
	他計	-.090 (1.075)	-.392 (1.075)	.126 (.713)	.365 (.705)	-.187 (1.042)	.276 (.674)	.322 (.858)	-.299 (.887)	.492 (.883)	-.141 (.876)	-.470 (.722)	32
全体		.022 (.917)	-.047 (.882)	.185 (.826)	.251 (.811)	-.453 (1.019)	.052 (.813)	.300 (.805)	-.264 (.945)	.263 (.769)	.107 (.796)	-.415 (.956)	1,424

※下段は標準偏差を現す。図表 付 5-24 も同じ。

同様に社会人の結果についても Z 得点化を行ったところ、図表 付 5-24 の結果を得た。男性 30 代について、「職業の仕事内容の解説」や「職場の環境」が Z 得点ではさほど高くない等、個別の評価も可能であるが、全体として大学生よりも正負を問わず得点の絶対値が高い点が特に注目される。つまり、大学生と比べると社会人については確かに変換前の素点の平均値は総じて低い傾向が見られたが、これは社会人のほうが「これは重要だが、これは重要ではない」という選好傾向がハッキリした、メリハリのある回答が多かったことを意味している。おそらく大多数が就職経験済みの社会人においては情報の重要性に関する理解が深まるために、こうした傾向が見られるのだと考えられる。

図表 付 5-24 社会人の回答者の職業選択において重要と思われる項目（Z 得点の平均値）

		使 職 業 の 事 務 内 容 の 解 説 か ？ 「何を 」	年 同 後 に 経 験 に よ る 職 業 の 変 化 か ？ 「何を 」	所 属 す る 時 間 の 長 短 か ？ 「1日 に 何 」	職 場 の 環 境 か ？ 「ど ん な 場 所 で 、 ど 」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画 か ？ 「何を 」	個 人 の 能 力 や 性 格 は 向 き か ？ 「自分 」	給 与 の 可 能 性 か ？ 「ど れ く ら い 稼 げ な る 昇 」	賃 金 や 年 収 の 水 準 か ？ 「今 後 の 稼 げ な ら い か ？ 」	所 属 す る 職 業 の 求 人 数 や 求 人 倍 率 か ？ 「何を 」	定 年 制 の 職 業 の 動 向 か ？ 「今 後 も 安 」	就 業 の 機 会 は な い か ？ 「ど う す れ 」	他 の 職 業 と の 関 係 性 か ？ 「ど ん な 職 業 に 」	n
男性	20代	.071 (.938)	-.072 (.800)	.186 (.798)	.257 (.829)	-.344 (.962)	.053 (.801)	.270 (.794)	-.243 (.902)	.271 (.793)	-.036 (.752)	-.413 (.846)	219	
	30代	.197 (.870)	-.068 (.878)	.243 (.874)	.208 (.828)	-.480 (.946)	-.018 (.811)	.485 (.887)	-.364 (.875)	.204 (.759)	-.059 (.717)	-.350 (.869)	220	
	40代	.387 (.822)	-.034 (.816)	.223 (.885)	.249 (.800)	-.464 (.999)	-.044 (.826)	.412 (.756)	-.437 (.837)	.136 (.706)	-.030 (.683)	-.399 (.764)	224	
	50代	.355 (.850)	.063 (.875)	.260 (.824)	.318 (.728)	-.572 (.926)	-.037 (.880)	.477 (.841)	-.496 (.750)	.097 (.780)	-.060 (.788)	-.406 (.789)	239	
女性	20代	.086 (1.022)	-.173 (.849)	.459 (.720)	.517 (.725)	-.276 (.966)	.004 (.833)	.413 (.772)	-.488 (.983)	.106 (.782)	-.112 (.836)	-.536 (.890)	238	
	30代	.187 (.886)	-.258 (.908)	.415 (.763)	.572 (.827)	-.263 (1.083)	-.051 (.792)	.429 (.792)	-.526 (.861)	.123 (.774)	-.123 (.738)	-.506 (.883)	234	
	40代	.275 (.887)	-.216 (.803)	.325 (.820)	.598 (.852)	-.386 (.974)	.102 (.807)	.349 (.796)	-.518 (.892)	.123 (.696)	-.080 (.757)	-.572 (.808)	228	
	50代	.326 (.825)	-.228 (.858)	.431 (.747)	.615 (.785)	-.414 (.856)	.101 (.719)	.346 (.743)	-.520 (.819)	.086 (.681)	-.147 (.741)	-.595 (.838)	235	
全体	.236 (.895)	-.124 (.855)	.320 (.809)	.420 (.812)	-.400 (.969)	.014 (.810)	.398 (.800)	-.451 (.870)	.142 (.748)	-.082 (.753)	-.473 (.840)	1,837		

4. 職業選択観

本付録 2 の最後に、第 5 章第 3 節第 3 項、および同章第 4 節第 2 項にて言及された「職業選択観」について、「あなたにとって、職業の選択とはどのようなものか？」を複数回答形式にて尋ねた結果について報告する。各選択肢の名称と、選択肢上の文言の対応、ならびに各選択肢の設定理由を図表 付 5-25 に示す。以下、同図表中の「名称」を用いて結果を報告するので適宜参照されたい。

図表 付 5-25 職業選択観に関する選択肢の名称と調査票上の文言の対応表

No	名称	選択肢の文言	設定の理由
1	専攻準拠	学校の専攻(例:美容、保育、医療)が、そのまま特定の職業へと続いているもの	専攻自体の選択者が誰であったかはともかく、進学がそのまま職業選択に直結していたという人の比率を把握したい。
2	経歴準拠	これまでの経歴・職歴の延長線上で、特定の職業を選ぶもの	過去の人的資本の蓄積を重視するという意味では「専攻準拠」と似ているが、主に転職・再就職者等の文脈を念頭に置いて設定。
3	適職探索	求職活動の開始時に自己分析や業界研究を行い、自分に合った職業を選ぶもの	新卒等のキャリア教育の文脈で推奨されることの多い、最も典型的な職業選択観の1つ。
4	役割準拠	家庭や地域における周囲の期待や、自分に求められる役割に合った職業を選ぶもの	キャリア理論の1つであるライフ・キャリア・レインボー(Nevill & Super, 1986)を参考に設定。
5	家業人脈	親族の家業(例:農園、商店)や人脈があり、探さなくても自分が納得できる職業に就けるもの	産業革命以前は「典型的」であった職業選択観として設定。
6	早期選択	個人的な理由(例:夢、使命感)で、ずっと前から心に決めて変わらないもの	Marcia (1966)の早期完了型、下村(2002)のやりたいこと志向等を参考に設定。
7	選択弱者	何らかの事情(例:経済的な事情、病気・障害、地域の過疎化)で、選べる余地がほとんどないもの	榎野(2017)の職業相談業務に関する記述を参考に設定。
8	偶発機会	偶然や幸運で訪れた就職のチャンスを、逃さずつかみ取ることで決まるもの	キャリア理論の1つである、計画された偶然性理論(Mitchel, Levin, & Krumboltz, 1999)を参考に設定。
9	企業準拠	就職先の企業は選択するが、職業を選択するという意識は持っていない	いわゆる総合職の新卒一括採用で見られがちな仕事の選択観。「職業の選択」という意識が薄い。
10	未検討	まだ職業の選択について考えたことがないので、よくわからない	まだ「職業の選択」について未検討の人を判別するため設定。
11	—	その他	—

まず大学生(図表 付 5-26)について見ると、文系の学生に関しては1年生、3年生ともに「適職探索」が最も多く、特に3年生では40.2%が選択していた。一方、理系・他計では学年を問わず「専攻準拠」の選択率が最も多く半数近くの回答者が選択していた。本設問に関しては、学年よりも学部・専攻のほうが顕著な差を生じさせている様子が窺える。

また、「経歴準拠」と「早期選択」についても選択率が比較的高い。特に他計では早期選択の比率が他の学部・専攻よりも高く、文系・理系といった社会的な多数派から外れる学部・専攻を選んでいる大学生では、個人的な夢や使命感に基づく「やりたいこと志向」(下村, 2002)や「早期完了型」(Marcia, 1966)の傾向が強い可能性が示唆される。

図表 付 5-26 大学生の回答者の職業選択観（複数回答）

		専攻準拠	経歴準拠	適職探索	役割準拠	家業人脈	早期選択	選択弱者	偶発機会	企業準拠	【排他】	その他	n
											未検討		
1年生	文系	94 25.2%	85 22.8%	110 29.5%	66 17.7%	36 9.7%	78 20.9%	22 5.9%	45 12.1%	24 6.4%	87 23.3%	1 0.3%	373
	理系	142 46.6%	68 22.3%	67 22.0%	43 14.1%	24 7.9%	62 20.3%	14 4.6%	41 13.4%	11 3.6%	54 17.7%	0 0.0%	305
	他計	28 47.5%	21 35.6%	19 32.2%	5 8.5%	2 3.4%	21 35.6%	0 0.0%	11 18.6%	2 3.4%	10 16.9%	0 0.0%	59
3年生	文系	81 21.7%	74 19.8%	150 40.2%	69 18.5%	20 5.4%	77 20.6%	18 4.8%	42 11.3%	30 8.0%	62 16.6%	1 0.3%	373
	理系	130 46.1%	66 23.4%	81 28.7%	40 14.2%	16 5.7%	55 19.5%	15 5.3%	42 14.9%	19 6.7%	45 16.0%	1 0.4%	282
	他計	18 56.3%	5 15.6%	6 18.8%	2 6.3%	2 6.3%	9 28.1%	0 0.0%	3 9.4%	0 0.0%	4 12.5%	0 0.0%	32
全体		493 34.6%	319 22.4%	433 30.4%	225 15.8%	100 7.0%	302 21.2%	69 4.8%	184 12.9%	86 6.0%	262 18.4%	3 0.2%	1,424

次に社会人（図表 付 5-27）について見ると、全ての層で「経歴準拠」が最も多かった。社会人に関しては大学生とは異なり既に何らかの職歴を有する場合が多いため、経歴準拠が多くなるのは自然な結果と言える。ただし男女ともに 20 代に関しては経歴準拠の選択比率は他の年齢階層よりも 8%ポイント程度低く、専攻準拠や適職探索と拮抗していた。20 代に関してはまだそれほど職歴等も豊富でないため、大学生に近い傾向が見られていると言える。

また大学生と比べて「早期選択」の選択率はやや低く 1~2 割程度に、「選択弱者」はやや高く 1 割程度になっている。これはおそらく、大学生の回答者が同年代の全体と比較してある種の選抜効果を持っているためと推測される。たとえば経済的な理由で進学を断念したり、やむを得ず中退したりした人は「選択弱者」を選びやすいと考えられ、社会人の回答者にのみこうした人々が一定数含まれていたことなどが考えられる。

図表 付 5-27 社会人の回答者の職業選択観（複数回答）

		専攻準拠	経歴準拠	適職探索	役割準拠	家業人脈	早期選択	選択弱者	偶発機会	企業準拠	【排他】	その他	n
											未検討		
男性	20代	53 24.2%	59 26.9%	59 26.9%	33 15.1%	14 6.4%	35 16.0%	17 7.8%	37 16.9%	30 13.7%	38 17.4%	2 0.9%	219
	30代	42 19.1%	75 34.1%	56 25.5%	43 19.5%	18 8.2%	48 21.8%	26 11.8%	37 16.8%	21 9.5%	29 13.2%	3 1.4%	220
	40代	34 15.2%	82 36.6%	53 23.7%	38 17.0%	18 8.0%	32 14.3%	23 10.3%	30 13.4%	20 8.9%	34 15.2%	3 1.3%	224
	50代	36 15.1%	106 44.4%	36 15.1%	36 15.1%	10 4.2%	20 8.4%	13 5.4%	23 9.6%	29 12.1%	41 17.2%	4 1.7%	239
女性	20代	64 26.9%	66 27.7%	59 24.8%	63 26.5%	16 6.7%	45 18.9%	32 13.4%	43 18.1%	18 7.6%	41 17.2%	3 1.3%	238
	30代	56 23.9%	84 35.9%	40 17.1%	52 22.2%	21 9.0%	30 12.8%	15 6.4%	24 10.3%	19 8.1%	34 14.5%	2 0.9%	234
	40代	36 15.8%	81 35.5%	39 17.1%	50 21.9%	9 3.9%	19 8.3%	25 11.0%	31 13.6%	20 8.8%	36 15.8%	1 0.4%	228
	50代	43 18.3%	83 35.3%	47 20.0%	52 22.1%	7 3.0%	25 10.6%	22 9.4%	30 12.8%	18 7.7%	34 14.5%	3 1.3%	235
全体	364 19.8%	636 34.6%	389 21.2%	367 20.0%	113 6.2%	254 13.8%	173 9.4%	255 13.9%	175 9.5%	287 15.6%	21 1.1%	1,837	

付録 2 引用文献 ※和文 50 音順 英文アルファベット順

榎野 潤 (2017). 「職業相談・紹介業務の逐語記録を活用した研修プログラムの研究開発—問題解決アプローチの視点から」 『労働政策研究報告書』, No.198.

下村英雄 (2002). 「第 4 章フリーターの職業意識とその形成過程—「やりたいこと」志向の虚実」 小杉礼子(編) 『自由の代償／フリーター—現代若者の就業意識と行動』 日本労働研究機構 所収

Marcia, J. E. (1966). Development and Validation of Ego-Identity Status. *Journal of Personality and Social Psychology*, 3, 551-558.

Mitchell, K. E., Levin, A. S., & Krumboltz, J. D. (1999). Planned Happenstance: Constructiong Unexpected Career Opportunities. *Journal of Counseling & Development*, 77, 115-124.

Nevil, D. D., & Super, D. E. (1986). *The Salience Inventory: Theory, Application, and Research*. Palo Alto, CA: Consulting Psychologists Press.

付録 3：職業選択観に基づく追加集計

この度構築が検討されている職業情報提供サイトは公的な職業に関する情報基盤として全ての国民の利益となる公共性が期待される。しかし、あらゆる文脈の人々に等しく恩恵を与える万能薬というわけではない。そこで、前掲の図表 付 5-26、5-27 の職業選択観の設問への回答状況を手がかりとして、職業情報提供サイトの潜在的な需要の高低を群分けした上で、ニーズの違いが見られるかを追加で集計した。その結果について本付録 3 にて報告する。

1. 追加集計の枠組み

追加集計では、基本的に下記の 7 群について比較を行った。

- ・適職探索群：大学生 433 名、社会人 316 名
自らの志向・適性と仕事の情報を吟味して意思決定を行おうとする群。最も職業選択の幅が広く、また判断材料となる情報を必要としており、一般の人々の中では職業情報提供サイトの潜在的な需要が最も高いと考えられる。
- ・経歴準拠群：大学生 319 名、社会人 546 名
過去の経歴・職歴との連続性を重視する群。連続性の認知は本人次第でもあるので、適職探索群に次いで職業選択の幅は広いと考えられる。また、自分の過去の経歴・職歴について客観的に理解する上でも職業情報提供サイトの活用が期待される。
- ・役割準拠群：大学生 225 名、社会人 300 名
家庭や地域において周囲から求められる期待・役割に合った職業を選ぼうとする群。中には特定の職種に限定されるケース（e.g. 地域の消防士）もあるが、「親の介護をしながら働ける」等、条件付ながら比較的選択の幅が残されている人も多いと考えられる。
- ・専攻準拠群：大学生 493 名、社会人 277 名
美容、保育、医療等、進学時点で既に特定の職業への「ルールに乗っている」と考える群。大学生における最大勢力であり、理系・他計で比較的多く見られる。前述の 3 群と比べると、選択の幅は大きく絞られている。
- ・選択不要・不可群：大学生 201 名、社会人 269 名
「家業や人脈があり、探さなくても自分が納得できる仕事に就ける」人、および、「個人的な理由でずっと前から心に決めている」、「偶然や幸運で訪れた就職のチャンスを見逃さずつかむ」、「何らかの事情で選べる余地がない」、のいずれか 1 つ以

上を選択し、それ以外の選択肢を選んでいない人を合算した群。これらの条件に当てはまる人は、理由はともかく幅広い職業情報の収集・分析を前提とした職業選択を不要・不可と捉えやすい状況にあり、職業情報提供サイトの潜在的需要は比較的低いことが予測される。

・企業準拠群：大学生 86 名、社会人 125 名

勤め先は選択するが、職業を選択するという意識は持たない群。新卒一括採用で大企業の総合職を目指す、社会的に知名度の高い企業を選択する等の文脈が考えられる。前述の各群とは異質な、「職業選択観を持たない群」であり、職業という切り口で情報を提供する職業情報提供サイトの潜在的需要は低いと予測される。

・未検討群：大学生 262 名、社会人 148 名

まだ職業の選択について考えたことがないという、職業選択観が未分化の群。将来的には適職探索群と同様、職業情報提供サイトの最も典型的なコアユーザー層となり得る可能性があるが、無業者等そもそも就職を考えていない人も含まれている。

また、社会人については上記 7 群に加えて「求職未経験群」（該当者 431 名）を第 8 の群として追加し、同群に該当する人は自動的に他の 7 群からは除外してある。これは社会人では求職経験者が多数派であるため、少数派である求職未経験者を除外した上で「実際に求職活動を行った人の、実体験を伴うニーズ」を見たかったためである。

なお、職業選択観に関する設問は複数回答形式であったため、同設問に由来する 7 群間で構成員は必ずしも排他的ではなく一部重複している。重複状況の確認として、大学生・社会人ごとの各群該当可否状況の共起性を図表付 5-28 に示す。他の群とは該当判定がもともと排他的である（i.e. 重複が論理的に発生し得ない）大学生の未検討群、および社会人の未検討群、求職未経験群については、当然ながら他の項目と共起は生じず Jaccard 係数¹は全て .00 となっている。その他の群間では、適職探索群、経歴準拠群、役割準拠群、専攻準拠群の間で一定の共起性が見られ、大学生の経歴準拠群と専攻準拠群の間では最大となる .24 の共起性が見られる²。群別集計の意味を損ねるほど大きな重複は無いと考えられるが、いずれにせよ追加集計では、こうした互いに排他的とは言えない群別の違いを検討している点に注意が必要である。

¹ 「事象 X と事象 Y が同時に生起している件数」を、「事象 X と事象 Y のいずれか 1 つ以上が生起している件数」で除すことで算出されるのが Jaccard 係数である。0～1 の値を取り、0 に近いほど 2 つの事象が同時に生起していない状態を、1 に近いほど同時に生起している状態を表す。

² 大学生の「経歴準拠」と「専攻準拠」の間の該当可否に関する Jaccard 係数が .24 であるということの意味は、両群いずれかに該当すると答えた大学生を全員集めたとき、そのうち 24% は両群に同時に該当している、ということになる。2 つの変数間の共変関係を検討する最も一般的な指標は相関係数だが、相関係数は「互いに 0（生起していない）」のケースを加味してしまうため、ここでは Jaccard 係数を用いている。

図表 付 5-28 大学生・社会人の追加集計における各群該当可否の共起性

大学生	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
① 適職探索	.18	.18	.17	.06	.03	.00	
② 経歴準拠		.12	.24	.06	.06	.00	
③ 役割準拠			.11	.05	.06	.00	
④ 専攻準拠				.03	.04	.00	
⑤ 選択不要・不可					.03	.00	
⑥ 企業準拠						.00	
⑦ 未検討							

社会人	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
① 適職探索	.20	.17	.12	.05	.02	.00	.00
② 経歴準拠		.18	.20	.05	.02	.00	.00
③ 役割準拠			.10	.06	.03	.00	.00
④ 専攻準拠				.05	.02	.00	.00
⑤ 選択不要・不可					.02	.00	.00
⑥ 企業準拠						.00	.00
⑦ 未検討							.00
⑧ 求職未経験							

※数値はすべてJaccard係数を表す。

2. 職業選択観別：書籍・サイトを使っていて不便だったこと

まず、仕事に関する一般的な情報を集めたことがある人を対象に既存の書籍・サイトで不便と感じたこと（冊子版の図表 5-7、5-8）について職業選択観別で集計したところ、大学生については図表 付 5-29 の結果となった。職業情報提供サイトの潜在的需要が比較的高いと思われる適職探索群から専攻準拠群までの図表上部 4 群では、「知りたい情報がなかった」と「情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった」の選択率が概ね全体よりも高い傾向が見られる。

また、企業準拠群については「1 度に目にする情報が多すぎて、分かりにくかった」と「自分が知りたい情報がどこにあるのか調べにくかった」の選択率が他の群よりも高く 3 割を超えている。また、「情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった」も選択率が 39.7% と高い。このことから、職業を選ぶというより企業で選ぶという人にとっては、「書籍やサイトに情報があっても、どこにあるか調べにくく到達するまで時間がかかり、せっかく見つけても情報量が多すぎて閲覧性が悪く、かつ、その情報が信頼できなかった」といった不便を感じている人が多いことが示唆されている。

一方、選択不要・不可群に関しては「情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった」の比率は全体とほぼ同程度の選択率であるものの、他の選択肢については総じて

選択率が低かった。未検討群についてはさらに各選択肢の選択率が低くなっており、排他項目である「特に不便なところはなかった」が 29.3%と高くなっている。

図表 付 5-29 大学生の職業選択親別の書籍・サイトを使っていて不便だと感じたこと
(複数回答、仕事について一般的な情報を集めたことがある人のみ)

	知りたい情報が無かった	情報が古すぎて参考にならなかった	情報が不正確だったり偏っていたり	書籍の価格、あるいはサイトの利用	情報が実用的ではなかった	情報の種類や量が不十分だった	1度にくらべて目にする情報が多すぎて、分	写真や動画などの視覚的情報がな	自分が知りたかった情報がない	情報の内容や見せ方が退屈だった	【排他】特に不便なところはなかった	その他	n
適職探索	118 31.1%	79 20.8%	106 27.9%	37 9.7%	51 13.4%	92 24.2%	100 26.3%	46 12.1%	102 26.8%	32 8.4%	64 16.8%	1 0.3%	380
経歴準拠	92 33.2%	74 26.7%	105 37.9%	32 11.6%	46 16.6%	67 24.2%	67 24.2%	43 15.5%	69 24.9%	28 10.1%	37 13.4%	2 0.7%	277
役割準拠	56 28.4%	52 26.4%	73 37.1%	25 12.7%	31 15.7%	58 29.4%	45 22.8%	36 18.3%	49 24.9%	14 7.1%	26 13.2%	1 0.5%	197
専攻準拠	145 35.0%	96 23.2%	131 31.6%	32 7.7%	50 12.1%	106 25.6%	91 22.0%	49 11.8%	81 19.6%	32 7.7%	60 14.5%	2 0.5%	414
選択不要・不可	38 22.5%	27 16.0%	53 31.4%	22 13.0%	24 14.2%	33 19.5%	31 18.3%	18 10.7%	30 17.8%	8 4.7%	19 11.2%	0 0.0%	169
企業準拠	19 27.9%	15 22.1%	27 39.7%	13 19.1%	11 16.2%	15 22.1%	22 32.4%	16 23.5%	21 30.9%	16 23.5%	14 20.6%	2 2.9%	68
未検討	20 21.7%	6 6.5%	18 19.6%	4 4.3%	7 7.6%	17 18.5%	11 12.0%	8 8.7%	15 16.3%	5 5.4%	27 29.3%	1 1.1%	92
全体	301 27.9%	206 19.1%	315 29.2%	91 8.4%	129 12.0%	235 21.8%	218 20.2%	117 10.9%	215 20.0%	77 7.1%	190 17.6%	6 0.6%	1,077

次に社会人の結果を図表 付 5-30 に示す。冊子版の図表 5-8 にて確認した通り大学生と比較すると「特に不便なところはなかった」の比率が全体的に高いが、特に企業準拠群と未検討群についてはそれぞれ 41.3%、54.5%が選択している。大学生でも両群は同排他項目の選択率が高い傾向が見られたが、社会人の場合さらにその傾向が顕著であると言える。

それ以外の選択肢を見ると、適職探索群から専攻準拠群までの職業情報提供サイトの需要が比較的高い 4 群ではより多くの項目が選択率 20%を超えており、また選択不要・不可群もやや選択率が高いように思われる。中でも、専攻準拠群の「知りたい情報がなかった」は 35.5%と全体平均の 26.2%を 9%ポイント程度上回っている。そこで改めて図表 付 5-29 の大学生の結果を見返してみると、確かに大学生においても専攻準拠群の同選択肢の選択率は 7 群で最も高く 35.0%となっている。専攻準拠群には一定のカリキュラムを経験する専門職や要資

格の職業の希望が多いことが予測されるが³、こうした専門職に関してはなかなか「知りたい情報が無い」ことも多いことが考えられる。

図表 付5-30 社会人の職業選択観別の書籍・サイトを使っていて不便だと感じたこと
(複数回答、仕事について一般的な情報を集めたことがある人のみ)

	知りたい情報が無かった	情報が古すぎて参考にならなかった	情報が不正確だったり偏っていたりして、信頼できなかった	料書籍の価格が高かった、あるいはサイトの利用	情報が実用的ではなかった	情報の種類や量が不十分だった	1度に目にかかる情報が多すぎて、分か	写真や動画などの視覚的情報がな	か調べに知っていた情報が多すぎた	情報の内容や見せ方が退屈だった	【排他】	その他	n
											特に不便なところはなかった		
適職探索	79 26.9%	63 21.4%	88 29.9%	18 6.1%	58 19.7%	68 23.1%	56 19.0%	32 10.9%	72 24.5%	13 4.4%	67 22.8%	5 1.7%	294
経歴準拠	148 29.8%	89 17.9%	126 25.4%	32 6.5%	84 16.9%	95 19.2%	84 16.9%	34 6.9%	100 20.2%	18 3.6%	133 26.8%	4 0.8%	496
役割準拠	72 27.2%	50 18.9%	77 29.1%	22 8.3%	48 18.1%	61 23.0%	53 20.0%	32 12.1%	61 23.0%	14 5.3%	55 20.8%	1 0.4%	265
専攻準拠	87 35.5%	52 21.2%	64 26.1%	23 9.4%	34 13.9%	50 20.4%	41 16.7%	23 9.4%	46 18.8%	17 6.9%	58 23.7%	2 0.8%	245
選択不要・不可	62 29.2%	38 17.9%	57 26.9%	18 8.5%	34 16.0%	45 21.2%	32 15.1%	14 6.6%	38 17.9%	13 6.1%	47 22.2%	5 2.4%	212
企業準拠	20 18.3%	10 9.2%	17 15.6%	5 4.6%	11 10.1%	23 21.1%	8 7.3%	9 8.3%	19 17.4%	3 2.8%	45 41.3%	0 0.0%	109
未検討	12 15.6%	5 6.5%	4 5.2%	2 2.6%	5 6.5%	4 5.2%	8 10.4%	2 2.6%	9 11.7%	2 2.6%	42 54.5%	1 1.3%	77
求職未経験	54 27.8%	23 11.9%	44 22.7%	9 4.6%	25 12.9%	31 16.0%	28 14.4%	7 3.6%	33 17.0%	5 2.6%	50 25.8%	3 1.5%	194
全体	363 26.2%	212 15.3%	297 21.4%	79 5.7%	184 13.3%	232 16.7%	204 14.7%	86 6.2%	245 17.7%	49 3.5%	391 28.2%	19 1.4%	1,388

3. 職業選択観別：やりたい仕事の情報収集で困ったこと

次に、自分がやりたい仕事の情報収集で困ったこと（冊子版の図表 5-9、5-10）について職業選択観別に集計したところ、大学生については図表 付5-31の結果となった。全体を概観すると、概ね職業情報提供サイトの潜在的需要が高いと思われる群ほど困ったことの数、

³ 参考までに専攻準拠群について希望職種（図表 付5-14、5-15）の内訳を見たところ、大学生では26.0%が、社会人では44.4%が「専門的・技術的な仕事」を選択していた。これはいずれも群別で最大であり、特に社会人は他群では最大でも適職探索群の26.4%が最大である中、2位以下に18%ポイントもの差をつけていた。したがって、概ね本文中の専攻準拠群に関する予測は正しいものと考えられる。

および選択率が高い傾向が見られる。たとえば、かなり職業選択の幅が狭まっている専攻準拠群に関しては選択不要・不可群や未検討群よりは困ったことの種類が多く選択率も高いものの、潜在的需要の高い上位3群と比べると相対的に見て少ないor低い。

ただし例外として、企業準拠群に関しては職業情報提供サイトの潜在的需要の高い群と同程度の選択率となっている箇所も見られる。彼らにとって「やりたい仕事の情報収集」の意味合いはより企業ベースの他群とは異質な活動と予想されるが、そうした観点であっても自分に合った企業、向いている企業を探す際には困ることが多いということと考えられる。

図表 付5-31 大学生の職業選択観別のやりたい仕事の情報収集で困ったこと（複数回答）

	か事多 っがく た自の 分仕に 事合の つ中 てで い、 どか の分 よう らな 仕	なや 仕り 事たい 内容仕 事か事 が具 体的 なか つど のよ う	かや 、り 分たい から仕 事か事 か自 分が 向い てい る	資や 格りが たい 要仕 事か事 かど のよ うな 免許 、	かル現 っ、状 た知 識は が、 足自 り分 ない どか の分 よう らな スキ	身ど にう つす くれ のば か必 要か なス キ ル や た知 識 が	かよ らう なな か教 育仕 事 に 機 就 関 く が あ め る に 、 か ど 分 の	【排他】 特 に 困 っ た こ と は な か っ た	【排他】 こ ま と だ が 仕 事 に の つ で い 答 え 情 報 を 集 め た	そ の 他	n
適職探索	205 47.2%	191 44.0%	201 46.3%	53 12.2%	131 30.2%	107 24.7%	59 13.6%	27 6.2%	53 12.2%	0 0.0%	434
経歴準拠	163 51.3%	119 37.4%	148 46.5%	49 15.4%	93 29.2%	79 24.8%	50 15.7%	20 6.3%	33 10.4%	0 0.0%	318
役割準拠	104 46.2%	89 39.6%	106 47.1%	37 16.4%	69 30.7%	52 23.1%	39 17.3%	12 5.3%	29 12.9%	0 0.0%	225
専攻準拠	196 39.8%	147 29.8%	171 34.7%	54 11.0%	117 23.7%	92 18.7%	54 11.0%	56 11.4%	82 16.6%	0 0.0%	493
選択不要・不可	50 24.9%	49 24.4%	73 36.3%	35 17.4%	47 23.4%	44 21.9%	32 15.9%	21 10.4%	20 10.0%	0 0.0%	201
企業準拠	39 45.3%	32 37.2%	37 43.0%	16 18.6%	19 22.1%	18 20.9%	21 24.4%	9 10.5%	12 14.0%	0 0.0%	86
未検討	33 12.6%	21 8.0%	25 9.5%	9 3.4%	15 5.7%	10 3.8%	8 3.1%	29 11.1%	177 67.6%	1 0.4%	262
全体	491 34.5%	393 27.6%	452 31.7%	150 10.5%	273 19.2%	220 15.4%	141 9.9%	140 9.8%	335 23.5%	2 0.1%	1,424

続いて社会人の結果を図表 付5-32に示す。社会人の場合、大学生以上に群間の差が顕著であり、職業情報提供サイトの潜在的需要の高い群ほど困ったことの数が多く、選択率が高い傾向が見られる。また社会人では企業準拠群について、「特に困ったことはなかった」が40.0%であるなど、潜在的需要の低さを反映するような結果となった。大学生の企業準拠群では、まだ企業の情報についてどのような観点で吟味すればいいか分からず困っている一方、

既に就職活動を経験した社会人の同群の場合は、たとえば資本金、従業員数等、どの情報に注目すべきかがある程度明確化され、結果的に「困ったことはなかった」の比率が高くなるということが考えられる。

図表 付 5-32 社会人の職業選択観別のやりたい仕事の情報収集で困ったこと（複数回答）

	か事が多かった	多くの仕事の中で、どのようにな	なりたい仕事の内容が具体的にどのよう	かや、分らない仕事に自分が向いている	資格が必要か分からなかった	免許、	カル現状知識が、足りな	身どうすれば必要なスキルや知識が	かや、分らない仕事に就くための、か	【排他】特に困ったことはなかった	【排他】こまどが仕事について答えられな	その他	n
適職探索	130 41.1%	110 34.8%	137 43.4%	34 10.8%	65 20.6%	56 17.7%	51 16.1%	61 19.3%	8 2.5%	2 0.6%	316		
経歴準拠	170 31.1%	145 26.5%	162 29.6%	48 8.8%	110 20.1%	73 13.3%	61 11.2%	186 34.0%	17 3.1%	6 1.1%	547		
役割準拠	90 30.1%	99 33.1%	104 34.8%	38 12.7%	60 20.1%	41 13.7%	39 13.0%	76 25.4%	16 5.4%	3 1.0%	299		
専攻準拠	98 35.4%	67 24.2%	77 27.8%	33 11.9%	48 17.3%	37 13.4%	35 12.6%	85 30.7%	12 4.3%	3 1.1%	277		
選択不要・不可	63 26.1%	63 26.1%	76 31.5%	29 12.0%	52 21.6%	37 15.4%	32 13.3%	60 24.9%	15 6.2%	2 0.8%	241		
企業準拠	30 24.0%	28 22.4%	24 19.2%	12 9.6%	22 17.6%	11 8.8%	11 8.8%	50 40.0%	13 10.4%	2 1.6%	125		
未検討	18 12.2%	7 4.7%	13 8.8%	5 3.4%	9 6.1%	3 2.0%	5 3.4%	43 29.1%	68 45.9%	1 0.7%	148		
求職未経験	65 15.1%	41 9.5%	54 12.5%	17 3.9%	34 7.9%	20 4.6%	15 3.5%	110 25.5%	187 43.4%	1 0.2%	431		
全体	443 24.1%	354 19.3%	430 23.4%	126 6.9%	257 14.0%	170 9.3%	151 8.2%	539 29.3%	323 17.6%	14 0.8%	1,837		

4. 職業選択観別：就職活動中に困ったこと

次に就職活動中に困ったこと（冊子版の図表 5-11、5-12）について職業選択観別に見たところ、大学生について図表 付 5-33 の結果となった。まず全体傾向として排他項目である「就職活動をしたことがないので答えられない」の比率が非常に高いが、選択不要・不可群については 29.4%と、比較的低かった。そこで同群について他の回答状況を見てみると、「業界について知りたい情報がなかなか得られなかった」が 20.9%で群間比較において同率 1 位、「その仕事で既に働いている人から話を聞くことができなかった」が 14.9%で群間比較にお

いて単独1位であった。家業の継承、夢を追う、そもそも選ぶ余地なし、等の職業選択観を持つ大学生にとっては、他群と比べて業界の情報を得たり、同業者等とのコネクションを持ったりすることが難しいということかもしれない。

それ以外の群に関しては、未検討群の「就職活動をしたことがないので答えられない」の選択率が85.9%と突出している他は、さほど群間で特筆すべき傾向は見られず、概ね職業情報提供サイトの需要が高い群ほど困ったことの種類が多く、選択率が高いという状況であった。ただし企業準拠群に関してはこの全体傾向には合致せず、「自分の強みや、やりたい仕事になかなか分からなかった」が30.2%、「どうやって面接の準備をすれば良いか分からなかった」が26.7%等、突出して高かった。また「業界について知りたい情報がなかなか得られなかった」が20.9%で同率1位、「履歴書や応募書類でどのようにアピールすれば良いか分からなかった」も23.3%で最も高かった。

この企業準拠群の結果についてはいくつかの解釈が考えられる。たとえば、同群の該当者は知名度の高い大企業等を選択しがちであるとすれば、就職活動の成功確率が自然と低くなり、このため「困ったこと」が顕在化しやすいのかもしれない。あるいは、そもそも職業を選ぶという感覚を持たずに企業だけで仕事を選ぼうとする姿勢が本人の視野の狭さ、職業選択観の未熟さを反映しており、こうした大学生はいざ就職活動で応募書類を準備し、面接等で志望動機等の受け答えをする場面で「困ったこと」に陥りやすいのかもしれない。いずれにせよ、他群の全体傾向から見ると異質な群であることが改めて示唆されたと言える。

図表 付 5-33 大学生の職業選択観別の就職活動中に困ったこと（複数回答）

	具体的にどのよう に就職活動をすれば 良いか分からなかつた	どんなスケジュールで就 職活動をすれば良いか 分からなかつた	企業について知りたい情 報がなかなか得られな かつた	業界について知りたい情 報がなかなか得られな かつた	職種について知りたい情 報がなかなか得られな かつた	自分の強みや、やりたい 仕事がかんがえられな かつた	その仕事で既に働いて いる人から話を聞くこと ができなかつた	履歴書や応募書類でど のようにアピールすべ いかわからなかつた
適職探索	116 26.7%	104 24.0%	91 21.0%	73 16.8%	69 15.9%	105 24.2%	52 12.0%	88 20.3%
経歴準拠	91 28.6%	69 21.7%	69 21.7%	54 17.0%	60 18.9%	60 18.9%	29 9.1%	58 18.2%
役割準拠	51 22.7%	57 25.3%	56 24.9%	44 19.6%	48 21.3%	43 19.1%	25 11.1%	44 19.6%
専攻準拠	105 21.3%	81 16.4%	69 14.0%	51 10.3%	49 9.9%	65 13.2%	27 5.5%	62 12.6%
選択不要・不可	41 20.4%	35 17.4%	43 21.4%	42 20.9%	40 19.9%	35 17.4%	30 14.9%	29 14.4%
企業準拠	20 23.3%	18 20.9%	19 22.1%	18 20.9%	16 18.6%	26 30.2%	11 12.8%	20 23.3%
未検討	8 3.1%	4 1.5%	4 1.5%	3 1.1%	3 1.1%	3 1.1%	3 1.1%	7 2.7%
全体	262 18.4%	211 14.8%	196 13.8%	167 11.7%	152 10.7%	195 13.7%	97 6.8%	183 12.9%

	具体的な応募方法が分 からなかつた	どうやって面接の準備を すれば良いかわからな かつた	どこに就職相談に行けば 良いかわからなかつた	【排他】	【排他】	その他	n
				特に困ったことはなかつた	就職活動をしたことがない ので答えられない		
適職探索	22 5.1%	82 18.9%	37 8.5%	12 2.8%	200 46.1%	0 0.0%	434
経歴準拠	19 6.0%	54 17.0%	24 7.5%	13 4.1%	129 40.6%	0 0.0%	318
役割準拠	14 6.2%	42 18.7%	21 9.3%	5 2.2%	98 43.6%	0 0.0%	225
専攻準拠	16 3.2%	55 11.2%	28 5.7%	23 4.7%	255 51.7%	1 0.2%	493
選択不要・不可	15 7.5%	22 10.9%	12 6.0%	10 5.0%	59 29.4%	0 0.0%	201
企業準拠	6 7.0%	23 26.7%	15 17.4%	8 9.3%	30 34.9%	0 0.0%	86
未検討	2 0.8%	8 3.1%	1 0.4%	16 6.1%	225 85.9%	0 0.0%	262
全体	53 3.7%	163 11.4%	73 5.1%	74 5.2%	726 51.0%	2 0.1%	1,424

続いて社会人の結果を図表 付 5-34 に示す。まず全体傾向としては、困ったことの種類自体は群間でさほど違いが見られないものの、前掲の他の結果と同様、職業情報提供サイトの潜在的需要が高い層ほど各種選択率は高いという傾向であった。企業準拠群に関しても社会人の場合は「特に困ったことはなかつた」の 41.6%をはじめ、この全体傾向に合致する状況であった。

そうした中でも、専攻準拠群について「具体的にどのように就職活動をすれば良いか分からなかつた」の選択率が 30.0%と、他群より高い点が注目される。書籍・サイトで不便だっ

たことに関する結果（図表 付 5-29、5-30）の考察でも述べた通り、同群は要資格の専門職等の志望者が比較的多いと考えられるが、こうした職種では世間一般の「就職活動の常識」があまり通用しにくいのかもしれない。

図表 付 5-34 社会人の職業選択観別の就職活動中に困ったこと（複数回答）

	具体的にどのよう に就職活動をすれば 良かったか分からな かった	どんなスケジュールで 就職活動をすれば良 いかなかった	企業について知りた い情報がなかなか得 られなかった	業界について知りた い情報がなかなか得 られなかった	職種について知りた い情報がなかなか得 られなかった	自分の強みや、やり たい仕事がかんがえ られなかった	その仕事で既に働 いている人から話を 聞くことができなかった	履歴書や応募書類 でどのようにアピール すれば良かったか分 らなかった
適職探索	77 24.4%	68 21.5%	75 23.7%	50 15.8%	48 15.2%	94 29.7%	55 17.4%	99 31.3%
経歴準拠	120 21.9%	110 20.1%	130 23.8%	75 13.7%	73 13.3%	116 21.2%	85 15.5%	144 26.3%
役割準拠	60 20.1%	58 19.4%	72 24.1%	43 14.4%	46 15.4%	79 26.4%	50 16.7%	89 29.8%
専攻準拠	83 30.0%	61 22.0%	58 20.9%	43 15.5%	35 12.6%	55 19.9%	36 13.0%	69 24.9%
選択不要・不可	44 18.3%	37 15.4%	50 20.7%	32 13.3%	34 14.1%	53 22.0%	41 17.0%	48 19.9%
企業準拠	18 14.4%	15 12.0%	19 15.2%	13 10.4%	13 10.4%	27 21.6%	13 10.4%	24 19.2%
未検討	15 10.1%	9 6.1%	7 4.7%	4 2.7%	3 2.0%	18 12.2%	5 3.4%	20 13.5%
求職未経験	57 13.2%	53 12.3%	35 8.1%	30 7.0%	22 5.1%	49 11.4%	18 4.2%	33 7.7%
全体	327 17.8%	259 14.1%	282 15.4%	174 9.5%	171 9.3%	328 17.9%	195 10.6%	344 18.7%

	具体的な応募方法が 分からなかった	どうやって面接の準備を すれば良かったか分 からなかった	どこに就職相談に行 けば良かったか分 からなかった	【排他】	【排他】	その他	n
				特に困ったことは なかった	就職活動をしたこと がないので答えられ ない		
適職探索	9 2.8%	56 17.7%	30 9.5%	67 21.2%	8 2.5%	3 0.9%	316
経歴準拠	18 3.3%	59 10.8%	39 7.1%	166 30.3%	11 2.0%	4 0.7%	547
役割準拠	16 5.4%	38 12.7%	29 9.7%	72 24.1%	8 2.7%	4 1.3%	299
専攻準拠	13 4.7%	40 14.4%	21 7.6%	79 28.5%	9 3.2%	4 1.4%	277
選択不要・不可	14 5.8%	23 9.5%	18 7.5%	64 26.6%	9 3.7%	5 2.1%	241
企業準拠	6 4.8%	11 8.8%	15 12.0%	52 41.6%	6 4.8%	2 1.6%	125
未検討	9 6.1%	10 6.8%	4 2.7%	57 38.5%	45 30.4%	1 0.7%	148
求職未経験	6 1.4%	23 5.3%	10 2.3%	119 27.6%	154 35.7%	1 0.2%	431
全体	57 3.1%	163 8.9%	102 5.6%	551 30.0%	232 12.6%	20 1.1%	1,837

5. 職業選択観別：転職活動中に困ったこと

次に、社会人のみで尋ねている転職活動中に困ったこと（冊子版の図表 5-13）について職業選択観別に見たところ、図表 付 5-35 の結果となった。本設問に関しても、概ね職業情報提供サイトの潜在的需要が高い層ほど困ったことの選択率が高いという全体傾向が見られる。ただし、前述の就職活動中に困ったこと（図表 付 5-33、5-34）と同様、専攻準拠群に関しては全体傾向から外れる回答状況であった。同群では「具体的にどのように転職・再就職の活動をすれば良いか分からなかった」の比率が 24.2%と、全体平均の約 2 倍で最も高い。要資格の専門職等については、就職活動だけでなく、転職活動においても具体的な活動方法に戸惑う人が多い可能性が示唆されている。

図表 付 5-35 社会人の職業選択観別の転職活動中に困ったこと（複数回答）

	具体的にどのように転職・再就職の活動をすれば良いか分からなかった	自分のスキル不足や能力不足で、応募できる求人が少なかった	これまでの経験、自分の能力を生かせる仕事が少ないかった	ある仕事と他の仕事の間で、何が共通していて、何が違うのかが分からなかった	求人を見ても、具体的にどのような仕事内容が分からなかった	求人を見ても、自分にできる仕事か分からなかった（能力面）	求人を見ても、自分に合っている仕事か分からなかった（性格面）	求人の書き方がバラバラで分かりにくかった
適職探索	60 19.0%	94 29.7%	82 25.9%	54 17.1%	68 21.5%	92 29.1%	72 22.8%	29 9.2%
経歴準拠	89 16.3%	129 23.6%	125 22.9%	61 11.2%	92 16.8%	107 19.6%	85 15.5%	42 7.7%
役割準拠	44 14.7%	75 25.1%	66 22.1%	40 13.4%	60 20.1%	75 25.1%	63 21.1%	26 8.7%
専攻準拠	67 24.2%	51 18.4%	51 18.4%	25 9.0%	29 10.5%	46 16.6%	46 16.6%	16 5.8%
選択不要・不可	38 15.8%	54 22.4%	44 18.3%	37 15.4%	43 17.8%	58 24.1%	50 20.7%	20 8.3%
企業準拠	13 10.4%	17 13.6%	15 12.0%	11 8.8%	14 11.2%	23 18.4%	16 12.8%	6 4.8%
未検討	11 7.4%	8 5.4%	6 4.1%	0 0.0%	6 4.1%	9 6.1%	10 6.8%	3 2.0%
求職未経験	28 6.5%	20 4.6%	18 4.2%	17 3.9%	18 4.2%	18 4.2%	16 3.7%	6 1.4%
全体	223 12.1%	268 14.6%	227 12.4%	134 7.3%	220 12.0%	270 14.7%	218 11.9%	82 4.5%

	求人に見ても、実際の手取りがいくらになるのか分からなかった	応募書類に自分のしてきた仕事、自分ができることをどのように書けば良いか分からなかった	面接で自分のしてきた仕事、自分ができることをどのように表現すれば良いか分からなかった	新しい職場の人間関係に馴染めるか不安だった	【排他】	【排他】	その他	n
					特に困ったことはなかった	企業・組織等への転職をしたことがないので答えられない		
適職探索	48 15.2%	42 13.3%	36 11.4%	76 24.1%	37 11.7%	43 13.6%	5 1.6%	316
経歴準拠	75 13.7%	59 10.8%	56 10.2%	111 20.3%	126 23.0%	55 10.1%	6 1.1%	547
役割準拠	46 15.4%	33 11.0%	31 10.4%	65 21.7%	44 14.7%	45 15.1%	2 0.7%	299
専攻準拠	40 14.4%	24 8.7%	32 11.6%	61 22.0%	48 17.3%	51 18.4%	1 0.4%	277
選択不要・不可	31 12.9%	17 7.1%	18 7.5%	36 14.9%	49 20.3%	25 10.4%	5 2.1%	241
企業準拠	13 10.4%	15 12.0%	14 11.2%	21 16.8%	47 37.6%	14 11.2%	3 2.4%	125
未検討	4 2.7%	2 1.4%	2 1.4%	11 7.4%	61 41.2%	54 36.5%	0 0.0%	148
求職未経験	10 2.3%	7 1.6%	11 2.6%	15 3.5%	92 21.3%	231 53.6%	2 0.5%	431
全体	164 8.9%	110 6.0%	112 6.1%	256 13.9%	436 23.7%	444 24.2%	17 0.9%	1,837

6. 職業選択観別：重要と思われる職業情報項目

次に、重要と思われる職業情報項目（冊子版の図表 5-14、5-15）について職業選択観別に見たところ、大学生について図表 付 5-36 の結果を得た。全体としては、相対的に見てどの項目の重要性が高いか、その判断傾向自体には群間で大きな違いは見られなかったが、職業情報提供サイトの潜在的需要が高い層ほど回答のメリハリがあり、重要と判断している項目の平均値が高い状況が見られる。また、企業準拠群に関しては相対的に重要と考える項目の状況自体は他群と一貫しているが職業情報提供サイトの潜在的需要との対応関係は見られず、総じてメリハリのある回答状況となっていた。彼らにとって本設問の「職業」の文言は主として「企業」を指すと考えられるが、そのように置き換えたとしても、求める情報の領域自体は一致していると言える。

図表 付 5-36 大学生の職業選択観別の重要と思われる職業情報項目（各 5 段階評価の平均値）

	使職 業の 仕事 内容 の解 説「何 を」	年 齢・ 職 業 に よ る 仕 事 の 変 化 「何 後 に ど う な ら ん か」	所 属 す る 職 業 の 働 き か た 「ど の 業 界 か」	時 間 の 働 き か た 「ど の 業 界 か」	職 場 の 環 境 「ど ん な 場 所 で、 ど ん な 人 と 働 く か」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画	の ん な 職 業 の 向 き 「ど ん な 業 界 か」	給 付 の 可 能 性 「ど ん な 業 界 か」	賃 金 や 年 収 の 水 準 「ど ん な 業 界 か」	そ の 職 業 で の 求 人 数 や 求 人 倍 率	定 来 的 な 職 業 の 動 向 「今 後 も 安 定 な 職 業 か」	ば そ の 職 業 に 就 く に は ど う す れ ば よ い か	キ 業 他 の 職 業 と の 関 係 「ど ん な 業 界 か」	n
適職探索	4.02 (0.94)	3.90 (0.92)	4.13 (0.89)	4.15 (0.92)	3.50 (1.03)	4.06 (0.86)	4.18 (0.88)	3.69 (0.98)	4.18 (0.88)	4.07 (0.95)	3.61 (1.00)	434		
経歴準拠	3.94 (0.97)	3.86 (1.06)	4.02 (0.95)	4.03 (0.95)	3.52 (1.02)	3.99 (0.95)	4.14 (0.94)	3.61 (1.04)	4.13 (0.93)	4.02 (0.95)	3.53 (1.03)	318		
役割準拠	3.91 (1.07)	3.74 (1.10)	4.01 (1.04)	4.05 (1.05)	3.52 (1.06)	3.97 (1.00)	4.08 (1.02)	3.77 (1.02)	4.10 (1.04)	4.08 (0.98)	3.52 (1.12)	225		
専攻準拠	3.99 (0.96)	3.91 (0.96)	4.10 (0.97)	4.14 (0.91)	3.58 (0.98)	4.01 (0.89)	4.19 (0.90)	3.72 (0.99)	4.14 (0.93)	3.98 (0.95)	3.55 (1.02)	493		
選択不要・不可	3.52 (1.13)	3.46 (1.13)	3.69 (1.02)	3.74 (1.02)	3.47 (1.05)	3.67 (0.96)	3.84 (1.01)	3.53 (1.03)	3.74 (1.04)	3.69 (1.02)	3.41 (1.01)	201		
企業準拠	3.78 (0.99)	3.86 (0.98)	3.98 (1.04)	3.97 (0.90)	3.36 (1.07)	3.79 (0.95)	3.99 (0.93)	3.65 (1.09)	4.06 (0.82)	3.93 (1.03)	3.55 (1.07)	86		
未検討	3.54 (0.85)	3.45 (0.87)	3.59 (0.90)	3.63 (0.87)	3.30 (0.81)	3.45 (0.84)	3.60 (0.92)	3.35 (0.83)	3.60 (0.91)	3.53 (0.81)	3.27 (0.83)	262		
全体	3.79 (0.99)	3.72 (1.00)	3.90 (0.98)	3.94 (0.96)	3.43 (0.99)	3.81 (0.94)	3.99 (0.97)	3.56 (0.98)	3.95 (0.97)	3.84 (0.96)	3.44 (1.00)	1,424		

※本設問については、やや変則的に各層の平均値上位 3 セルを色づけしている。図表 付 5-38 も同じ。

ここで、前掲の付録 2 と同様に素点から Z 得点へ標準化して集計を行ったところ図表 付 5-37 の結果を得た。Z 得点の絶対値は職業情報提供サイトの潜在的需要が高い群ほど大きい。したがって、Z 得点の観点から見てもやはり職業情報提供サイトの潜在的需要が高いと考えられる群ほど、メリハリのある回答がなされていることが読み取れる。

図表 付 5-37 大学生の職業選択観別の重要と思われる職業情報項目（Z 得点の平均値）

	使職 業の 仕事 内容 の解 説か 「何 を」	「何 年 後 に ど う な る の か 」	そ の 職 業 で 働 き 続 け た 場 合 の 変 化 、	属 す る の か 、 自 営 ・ 独 立 組 織 に 属 す る の か 」	そ の 職 業 の 働 き 方 「日 に 何 回 」	職 場 の 環 境 「ど ん な 場 所 で 、 ど んな 人 と 働 く の か 」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画	の 能 力 や 個 性 は 生 か せ る か 」	そ の 職 業 の 向 き 「ど んな 職 業 の 向 き か 」	給 金 や 年 収 の 水 準 、 将 来 的 な 昇 給 の 可 能 性 「ど れ 程 度 か 」	「そ の 職 業 で の 求 人 数 や 求 人 倍 率 」	定 将 来 的 な 職 業 の 動 向 「今 後 も 安 定 な 職 業 が あ る の か 」	「就 業 に 就 く に は ど う す る の か 」	キ ャ ー と の 関 係 「ど んな 職 業 に 就 く の か 」	n
適職探索	.075 (.941)	-.087 (.880)	.247 (.805)	.276 (.856)	-.641 (1.077)	.115 (.824)	.306 (.817)	-.345 (1.010)	.339 (.758)	.162 (.812)	-.445 (.987)	434			
経歴準拠	.011 (.903)	-.018 (.865)	.168 (.857)	.198 (.823)	-.482 (1.015)	.102 (.806)	.327 (.837)	-.360 (1.012)	.321 (.719)	.178 (.844)	-.446 (1.023)	318			
役割準拠	.047 (.851)	-.183 (.910)	.197 (.816)	.224 (.899)	-.582 (1.137)	.141 (.887)	.241 (.820)	-.177 (.956)	.320 (.773)	.234 (.762)	-.463 (1.002)	225			
専攻準拠	.079 (.888)	-.028 (.909)	.221 (.881)	.300 (.829)	-.501 (1.036)	.075 (.852)	.311 (.805)	-.293 (.970)	.285 (.726)	.072 (.865)	-.521 (.986)	493			
選択不要・不可	-.142 (1.050)	-.129 (.989)	.107 (.781)	.190 (.817)	-.235 (1.035)	.038 (.794)	.266 (.808)	-.126 (.953)	.188 (.822)	.091 (.816)	-.247 (.912)	201			
企業準拠	-.050 (.863)	.101 (.793)	.237 (.856)	.129 (.810)	-.520 (.877)	-.043 (.822)	.131 (.900)	-.149 (.954)	.297 (.689)	.182 (.750)	-.315 (.907)	86			
未検討	.062 (.781)	-.069 (.803)	.103 (.773)	.237 (.720)	-.257 (.812)	-.044 (.683)	.183 (.751)	-.213 (.834)	.183 (.774)	.080 (.654)	-.265 (.818)	262			
全体	.034 (.903)	-.066 (.888)	.190 (.830)	.244 (.827)	-.480 (1.029)	.071 (.817)	.276 (.813)	-.269 (.967)	.284 (.753)	.134 (.805)	-.417 (.967)	1,424			

続いて社会人の結果を図表 付 5-38 に示す。社会人の場合も、相対的に見て重要な項目の傾向自体は群間でほぼ一致していること、ただしその得点のメリハリは職業情報提供サイトの潜在的需要が高い群ほど強いことが全体傾向として見られた。また企業準拠群についても、大学生のような特筆すべき傾向は見られず、概ね全体傾向の中に位置づけられる状況となっている。

図表 付 5-38 社会人の職業選択観別の重要と思われる職業情報項目（各 5 段階評価の平均値）

	使 職 業 の 仕 事 内 容 の 解 説 か ？ 「 何 を 」	年 所 の 職 業 に 関 心 が あ る か ？ 「 何 を 」	属 時 間 の 長 短 が あ る か ？ 「 何 を 」	職 場 の 環 境 が よ い か ？ 「 何 を 」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画 が あ る か ？ 「 何 を 」	の ん な 職 業 の 向 き か ？ 「 何 を 」	の 給 与 が あ る か ？ 「 何 を 」	「 そ の 職 業 で の 求 人 数 が あ る か ？ 」	定 将 来 的 な 職 業 の 動 向 が あ る か ？ 「 今 後 も 安 く あ る か ？ 」	ば 就 業 の 機 会 が あ る か ？ 「 何 を 」	キ ヤ リ ア の 関 係 が あ る か ？ 「 何 を 」	他 の 職 業 と の 区 別 が あ る か ？ 「 何 を 」	n
適職探索	3.97 (0.87)	3.66 (0.94)	3.99 (0.87)	4.08 (0.81)	3.40 (0.93)	3.82 (0.89)	4.07 (0.86)	3.37 (0.93)	3.93 (0.84)	3.78 (0.89)	3.37 (0.92)		316
経歴準拠	3.96 (0.88)	3.68 (0.87)	3.98 (0.88)	4.03 (0.84)	3.34 (0.98)	3.69 (0.92)	4.01 (0.85)	3.33 (0.97)	3.78 (0.91)	3.63 (0.93)	3.28 (0.95)		547
役割準拠	3.85 (0.92)	3.63 (0.88)	4.01 (0.90)	4.08 (0.84)	3.42 (0.92)	3.77 (0.91)	4.01 (0.90)	3.31 (0.97)	3.80 (0.92)	3.59 (0.91)	3.24 (0.93)		299
専攻準拠	3.93 (0.98)	3.61 (0.95)	3.96 (0.95)	4.00 (0.93)	3.38 (0.99)	3.69 (0.98)	3.99 (0.95)	3.35 (0.98)	3.77 (0.99)	3.57 (1.01)	3.22 (1.00)		277
選択不要・不可	3.78 (0.98)	3.52 (0.99)	3.90 (0.91)	3.98 (0.92)	3.39 (0.95)	3.68 (0.89)	3.87 (0.98)	3.33 (1.00)	3.71 (0.99)	3.65 (0.92)	3.34 (0.97)		241
企業準拠	3.71 (0.89)	3.34 (0.97)	3.84 (0.88)	3.92 (0.89)	3.08 (0.94)	3.47 (0.91)	3.94 (0.86)	3.15 (0.92)	3.62 (0.95)	3.40 (0.93)	3.18 (0.91)		125
未検討	3.43 (0.87)	3.14 (0.73)	3.54 (0.83)	3.51 (0.87)	3.11 (0.79)	3.31 (0.78)	3.49 (0.81)	3.07 (0.69)	3.31 (0.72)	3.18 (0.67)	3.07 (0.68)		148
求職未経験	3.62 (0.98)	3.42 (0.92)	3.62 (0.96)	3.73 (0.90)	3.18 (0.91)	3.47 (0.91)	3.71 (0.93)	3.15 (0.91)	3.61 (0.97)	3.38 (0.90)	3.11 (0.87)		431
全体	3.77 (0.93)	3.49 (0.91)	3.83 (0.92)	3.89 (0.90)	3.27 (0.93)	3.59 (0.91)	3.87 (0.91)	3.23 (0.93)	3.68 (0.93)	3.50 (0.91)	3.19 (0.90)		1,837

参考までに、素点から Z 得点に標準化した場合の結果を図表 付 5-39 に示す。素点平均値の結果との違いとしては、企業準拠群において「賃金や年収の水準」の Z 得点が .539 と際立って高い点が注目される。つまり、同群で同項目の重要性を高く評価した人は、漫然と他の項目も高く評価していたわけではなく、「賃金や年収だけを高く評価していた」人が多かったことが示唆される。同群の該当者が大企業や知名度の高い企業を選ぶ傾向があるのだとすれば、そうした人々は社会的なステータスにも関心が高いことが予測され、「年収いくらになるのか」を気にする傾向が他群より高かったとしても違和感は無いものと考えられる⁴。

⁴ ただし、この議論は「風が吹けば桶屋が儲かる」的な因果推論の錯誤に陥っている懸念がある。本点について精査するためには、さらなる調査が必要である。

図表 付 5-39 社会人の職業選択観別の重要と思われる職業情報項目（Z得点の平均値）

	使職 業の 仕事 内容 の解 説「何 を」	年所 何の 年職 後業 にに に働 にに 働 どよ き なる 仕 事 の 場 合 変 化 か ？」	属時 す間 るの のら か、 働 働 自の 営働 ・か 独方 立組 立織 か織 か日 ？」に ？」何	ん職 場 の 環 境 の 「ど ん な 場 所 で、 ど ん な 環 境 か ？」	職 場 の 様 子 を 写 し た 写 真 や 動 画	のん 能の 力人 やが 業業 やへ 個性 の向 はて 生い かか るか ？」	の給 金 可 能 性 の 「ど れ 水 準 か ？」	「そ の 職 業 で の 募 集 は 多 人 数 の 求 人 倍 率 か ？」	定将 して 的 な 職 業 の 動 向 か ？」	ば就 その くは の職 業 に なる ける には 「ど う す れ か ？」	キ業 ヤと リ似 アア アの ッの ブか し？ やど すん い？ か職 ？業 にに	n
適職探索	.266 (.849)	-.167 (.878)	.295 (.832)	.413 (.801)	-.477 (.969)	.050 (.818)	.399 (.806)	-.539 (.922)	.213 (.707)	.049 (.821)	-.502 (.877)	316
経歴準拠	.325 (.877)	-.035 (.856)	.358 (.826)	.421 (.790)	-.471 (1.032)	-.028 (.865)	.419 (.780)	-.497 (.926)	.114 (.773)	-.082 (.786)	-.525 (.877)	547
役割準拠	.184 (.887)	-.121 (.889)	.396 (.831)	.494 (.779)	-.396 (1.022)	.067 (.841)	.428 (.835)	-.500 (.949)	.156 (.762)	-.127 (.813)	-.581 (.883)	299
専攻準拠	.299 (.943)	-.073 (.848)	.331 (.843)	.397 (.832)	-.379 (.969)	-.013 (.843)	.391 (.819)	-.419 (.896)	.119 (.725)	-.100 (.758)	-.551 (.851)	277
選択不要・不可	.131 (.899)	-.218 (.904)	.311 (.836)	.424 (.892)	-.409 (1.081)	.056 (.836)	.338 (.853)	-.391 (.905)	.121 (.733)	.024 (.751)	-.386 (.849)	241
企業準拠	.264 (.894)	-.212 (.818)	.397 (.794)	.503 (.846)	-.554 (.866)	-.099 (.835)	.539 (.774)	-.464 (.793)	.143 (.778)	-.144 (.685)	-.375 (.822)	125
未検討	.182 (.783)	-.214 (.769)	.316 (.667)	.282 (.814)	-.237 (.787)	.026 (.708)	.300 (.722)	-.288 (.722)	.049 (.621)	-.143 (.584)	-.273 (.703)	148
求職未経験	.227 (.871)	-.065 (.851)	.232 (.821)	.393 (.788)	-.391 (.951)	.000 (.792)	.340 (.780)	-.404 (.799)	.207 (.760)	-.104 (.727)	-.435 (.829)	431
全体	.247 (.880)	-.112 (.861)	.323 (.820)	.417 (.810)	-.421 (.985)	.009 (.827)	.391 (.800)	-.452 (.884)	.148 (.743)	-.073 (.763)	-.478 (.854)	1,837

7. 職業選択観別：新たな職業情報サイトにほしい情報

最後の追加集計として、新たな職業情報サイトにほしい情報（冊子版の図表 5-16、5-17）について、大学生の結果を図表 付 5-40 に示す。まず「百科事典のような職業情報」に関しては、職業情報提供サイトの潜在的需要が高い上部 4 群、および企業準拠群で「YES（ほしい）」の比率が比較的高かった。調査者としては適職探索群が最も百科事典的な広範な職業情報を必要としているものと想定していたが、意外にも企業準拠群のほうが「ほしい」という人の比率は高かった。ただし、企業準拠群の「ほしい」は他群とはやや異質な企業ベースの情報を指すと思われるため、彼らのニーズに職業情報提供サイトが応えられるかどうかは分からない。

一方、「専門書のような職業情報」に関しては、職業情報提供サイトの潜在的需要が高いほど「YES」率が高いという、比較的明確な全体傾向が見られ、適職探索群、経歴準拠群、役割準拠群、専攻準拠群では 7 割を超えていた。ただし、やはり企業準拠群でも「YES」率は 64.0%とやや高く、そのニーズの中身は異質であることが予想される。

図表 付 5-40 大学生の職業選択観別の職業情報サイトにほしい情報

	さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい			自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい			n
	YES	どちらともいえない	NO	YES	どちらともいえない	NO	
適職探索	249 57.4%	144 33.2%	41 9.4%	331 76.3%	88 20.3%	15 3.5%	434
経歴準拠	167 52.5%	123 38.7%	28 8.8%	233 73.3%	71 22.3%	14 4.4%	318
役割準拠	129 57.3%	68 30.2%	28 12.4%	165 73.3%	48 21.3%	12 5.3%	225
専攻準拠	245 49.7%	185 37.5%	63 12.8%	351 71.2%	117 23.7%	25 5.1%	493
選択不要・不可	76 37.8%	103 51.2%	22 10.9%	95 47.3%	92 45.8%	14 7.0%	201
企業準拠	51 59.3%	29 33.7%	6 7.0%	55 64.0%	27 31.4%	4 4.7%	86
未検討	88 33.6%	152 58.0%	22 8.4%	108 41.2%	138 52.7%	16 6.1%	262
全体	666 46.8%	602 42.3%	156 11.0%	871 61.2%	473 33.2%	80 5.6%	1,424

続いて、冊子版と重複するが、社会人の結果を図表 付 5-41 に示す。社会人の場合、「百科事典のような職業情報」がほしいという人は全体で 25.9%とさほど多くはない。しかし、適職探索群では 40.8%、役割準拠群では 35.8%と、社会人であっても本人の職業選択に対する認識次第では幅広い職業情報のニーズがあることが読み取れる。もちろん、比率としては社会人全体に占める適職探索群の比率は大学生ほどは高く無いが、社会全体における大学生の総数と社会人の総数では後者のほうが圧倒的に多いので⁵、百科事典のような職業情報に関する社会人の適職探索者のニーズも本調査で一定程度確認できたと言える。

一方、「専門書のような職業情報」についても基本的には職業情報提供サイトの潜在的需要が高い群ほど「YES」率が高く、上位 4 群では過半数を超えていた。百科事典のような職業情報と同じく、社会人の場合でも適職探索者等については、大学生に近いニーズが確認されたと言える。

⁵ どの程度社会人の方が多いかについては、冊子版第 5 章第 4 節第 2 項の脚注を参照されたい。

図表 付 5-41 社会人の職業選択観別の職業情報サイトに欲しい情報

	さまざまな職業の情報がコンパクトにまとめられた、百科事典のような職業情報がほしい			自分が関心のある職業、就職できそうな職業を詳しく調べられる、専門書のような職業情報がほしい			n
	YES	どちらともいえない	NO	YES	どちらともいえない	NO	
適職探索	129 40.8%	154 48.7%	33 10.4%	206 65.2%	91 28.8%	19 6.0%	316
経歴準拠	155 28.3%	292 53.4%	100 18.3%	290 53.0%	203 37.1%	54 9.9%	547
役割準拠	107 35.8%	149 49.8%	43 14.4%	161 53.8%	115 38.5%	23 7.7%	299
専攻準拠	77 27.8%	149 53.8%	51 18.4%	150 54.2%	99 35.7%	28 10.1%	277
選択不要・不可	62 25.7%	137 56.8%	42 17.4%	97 40.2%	121 50.2%	23 9.5%	241
企業準拠	26 20.8%	81 64.8%	18 14.4%	36 28.8%	75 60.0%	14 11.2%	125
未検討	17 11.5%	111 75.0%	20 13.5%	20 13.5%	110 74.3%	18 12.2%	148
求職未経験	100 23.2%	261 60.6%	70 16.2%	142 32.9%	244 56.6%	45 10.4%	431
全体	475 25.9%	1067 58.1%	295 16.1%	770 41.9%	887 48.3%	180 9.8%	1,837

以上